

## いじめ・不登校問題の現状

	頁
1 いじめ問題に関する基本的認識	2
2 いじめの定義の変更	3
3 いじめの認知（発生）件数の推移	4
4 いじめの認知（発生）件数の学年別内訳	5
5 いじめの発見のきっかけ（H18）	6
6 いじめられた児童生徒の相談の状況（H18）	7
7 いじめの態様（H18）	8
8 個々のいじめへの対応（H18）	9
9 学校におけるいじめの問題に対する日常の取組（H18）	10
10 不登校の定義	11
11 不登校児童生徒数・出現率の推移	12
12 不登校児童生徒数の学年別内訳	13
13 不登校となったきっかけと考えられる状況（H18）	14
14 不登校状態が継続している理由（H18）	15
15 登校できるようになった不登校児童生徒に対し効果のあった措置（H18）	16
16 暴力行為発生件数・発生率の推移	17
17 暴力行為の学年別加害児童生徒数	18
18 「平成 19 年度全国学力・学習状況調査」結果から見た本県児童・生徒の意識・行動	19
19 児童・生徒と保護者の会話について（～生活に関する行動・意識調査～）	25
20 平成 19 年度 いじめ・不登校児童生徒対策事業の体系	26
21 他県での家庭・地域等と連携した取り組み事例	27
22 教育関連年表（生徒指導関係）	31

上記資料の調査対象は、公立学校となっている。

## いじめ問題に関する基本的認識

いじめについては、「どの子どもにも、どの学校においても起こり得る」ものであることを十分認識するとともに、特に、以下の点を踏まえ、適切に対応する必要があること。

- 1. 「弱いものをいじめることは人間として絶対に許されない」との強い認識を持つこと。**  
どのような社会にあっても、いじめは許されない、いじめる側が悪いという明快な一事を毅然とした態度で行きわたらせる必要がある。いじめは子どもの成長にとって必要な場合もあるという考えは認められない。また、いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめる行為と同様に許されない。
- 2. いじめられている子どもの立場に立った親身の指導を行うこと。**  
子どもの悩みを親身になって受け止め、子どもの発する危険信号をあらゆる機会を捉えて鋭敏に感知するよう努める。自分のクラスや学校に深刻ないじめ事件が発生し得るという危機意識を持つ。なお、いじめの件数が少ないことのみをもって問題なしとすることは早計である。
- 3. いじめは家庭教育の在り方に大きな関わりを有していること。**  
いじめの問題の解決のために家庭が極めて重要な役割を担う。いじめの問題の基本的な考え方は、まず家庭が責任を持って徹底する必要がある。家庭の深い愛情や精神的な支え、信頼に基づく厳しさ、親子の会話や触れ合いの確保が重要である。
- 4. いじめの問題は、教師の児童生徒観や指導の在り方が問われる問題であること。**  
個性や差異を尊重する態度やその基礎となる価値観を育てる指導を推進する。道徳教育、心の教育を通してかけがえのない生命、生きることの素晴らしさや喜びなどについて指導することが必要である。
- 5. 家庭・学校・地域社会など全ての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって真剣に取り組むことが必要であること。**  
いじめの解決に向けて関係者の全てがそれぞれの立場からその責務を果たす必要がある。地域を挙げた取組も急務である。

「いじめの問題に関する総合的な取組について（平成 8 年 7 月 児童生徒の問題行動等に関する調査研究会議（報告）」より

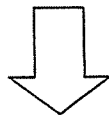
## いじめの定義の変更

文部科学省「平成18年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」  
別紙1「新旧対照表」より

### (現行)

この調査において「いじめ」とは、「①自分より弱い者に対して一方的に、②身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、③相手が深刻な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。」とする。

なお、個々の行為がいじめに当たるか否かの判断を表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うこと。



### (新)

本調査において、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」とする。

なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

(注1)「いじめられた児童生徒の立場に立って」とは、いじめられたとする児童生徒の気持ちを重視することである。

(注2)「一定の人間関係のある者」とは、学校の内外を問わず、例えば、同じ学校・学級や部活動の者、当該児童生徒が関わっている仲間や集団(グループ)など、当該児童生徒と何らかの人間関係のある者を指す。

(注3)「攻撃」とは、「仲間はずれ」や「集団による無視」など直接的にかかわるものではないが、心理的な圧迫などで相手に苦痛を与えるものも含む。

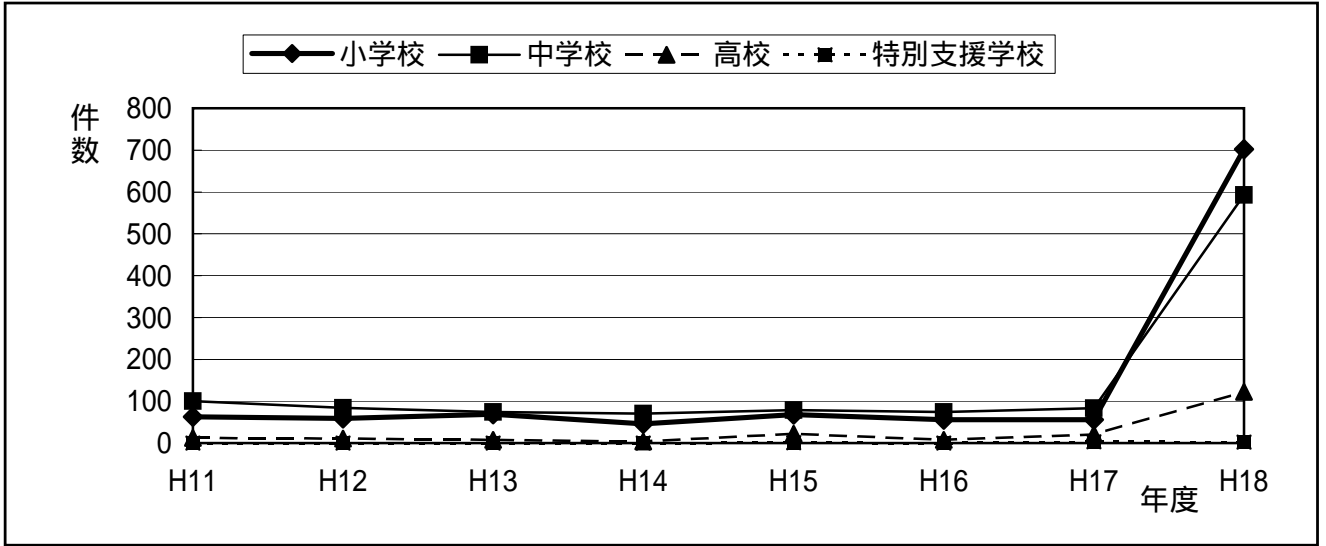
(注4)「物理的な攻撃」とは、身体的な攻撃のほか、金品をたかられたり、隠されたりすることなどを意味する。

(注5)けんか等を除く。

# いじめの認知（発生）件数の推移

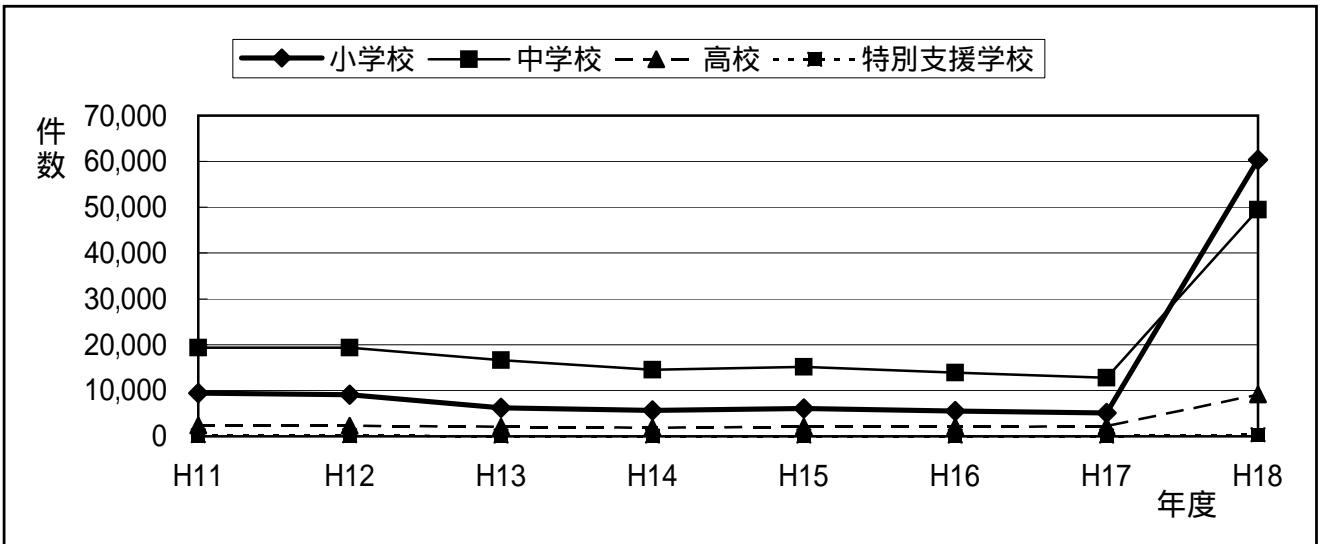
いじめの認知(発生)件数は、平成18年度調査からいじめの定義が変更されたため、急増した。  
 本県の全ての校種を含めた児童生徒1,000人当たりの認知件数は12.3であり、国の平均9.2と比べて高くなっている。

## 【富山県】



	発生件数							認知件数
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
小学校	63	59	69	46	68	56	56	702
中学校	100	84	74	70	79	74	83	593
高校	12	11	8	4	22	8	21	122
特別支援学校	0	0	0	0	1	0	3	2
計	175	154	151	120	170	138	163	1,419
1000人当たり	1.4	1.2	1.2	1.0	1.4	1.2	1.4	12.3

## 【全国】



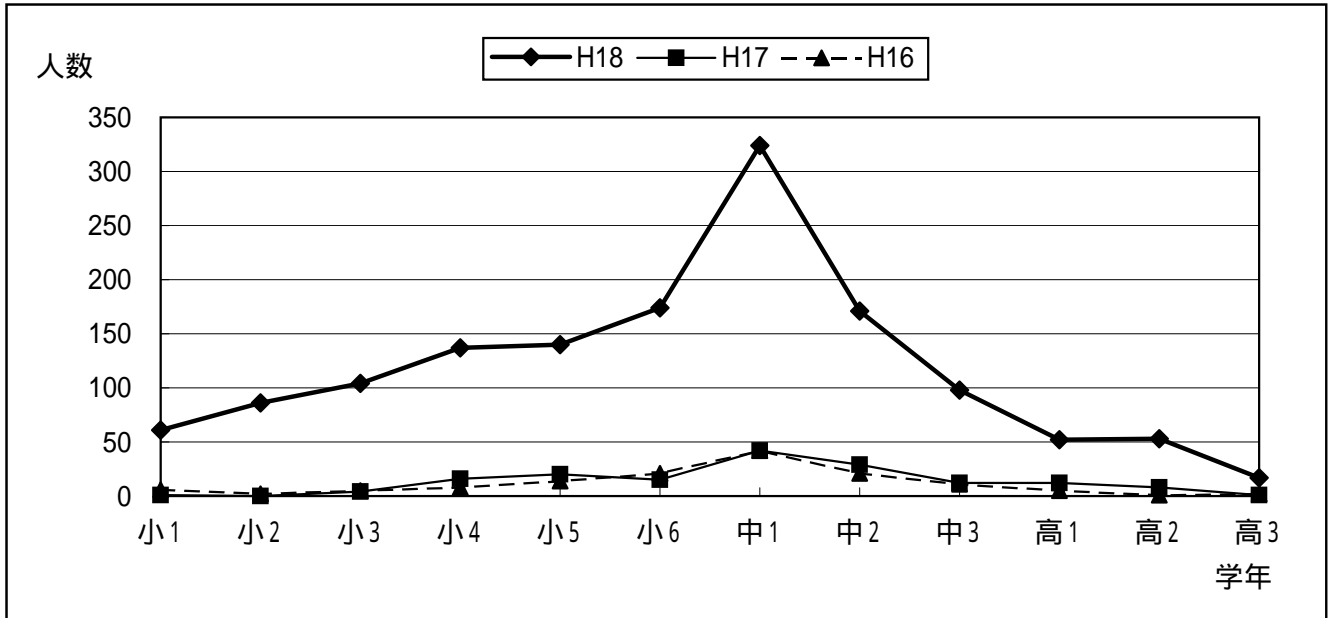
	発生件数							認知件数
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
小学校	9,462	9,114	6,206	5,659	6,051	5,551	5,087	60,380
中学校	19,383	19,371	16,635	14,562	15,159	13,915	12,794	49,443
高校	2,391	2,327	2,119	1,906	2,070	2,121	2,191	9,166
特別支援学校	123	106	77	78	71	84	71	371
計	31,359	30,918	25,037	22,205	23,351	21,671	20,143	119,360
1000人当たり	2.2	2.2	1.8	1.6	1.7	1.6	1.5	9.2

資料：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

## いじめの認知（発生）件数の学年別内訳

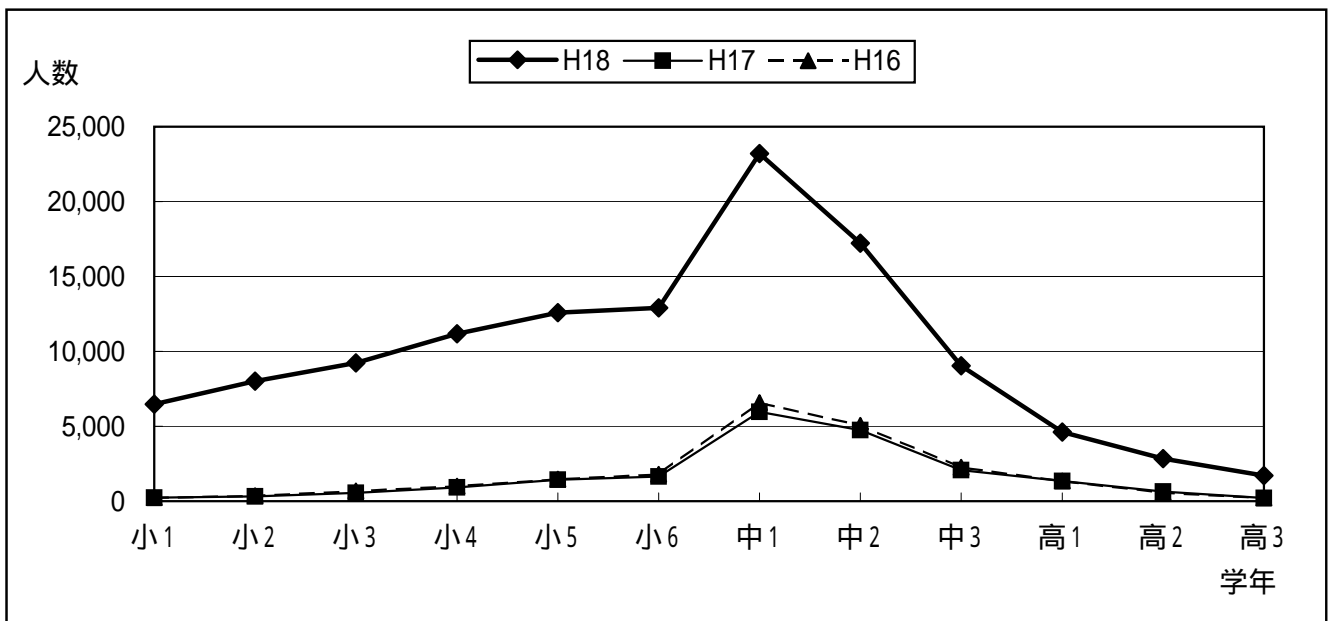
いじめの認知件数(発生件数)は、中学1年生で急増し、以降、学年が進むにつれて減少する傾向にある。

### 【富山県】



区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H18	61	86	104	137	140	174	324	171	98	52	53	17
H17	1	0	4	16	20	15	42	29	12	12	8	1
H16	6	2	5	8	14	21	42	21	11	5	1	2

### 【全国】



区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H18	6,471	8,006	9,235	11,166	12,595	12,907	23,198	17,212	9,033	4,618	2,842	1,706
H17	227	316	566	920	1,421	1,637	5,967	4,751	2,076	1,355	633	203
H16	238	368	680	1,001	1,466	1,798	6,587	5,062	2,266	1,336	582	203

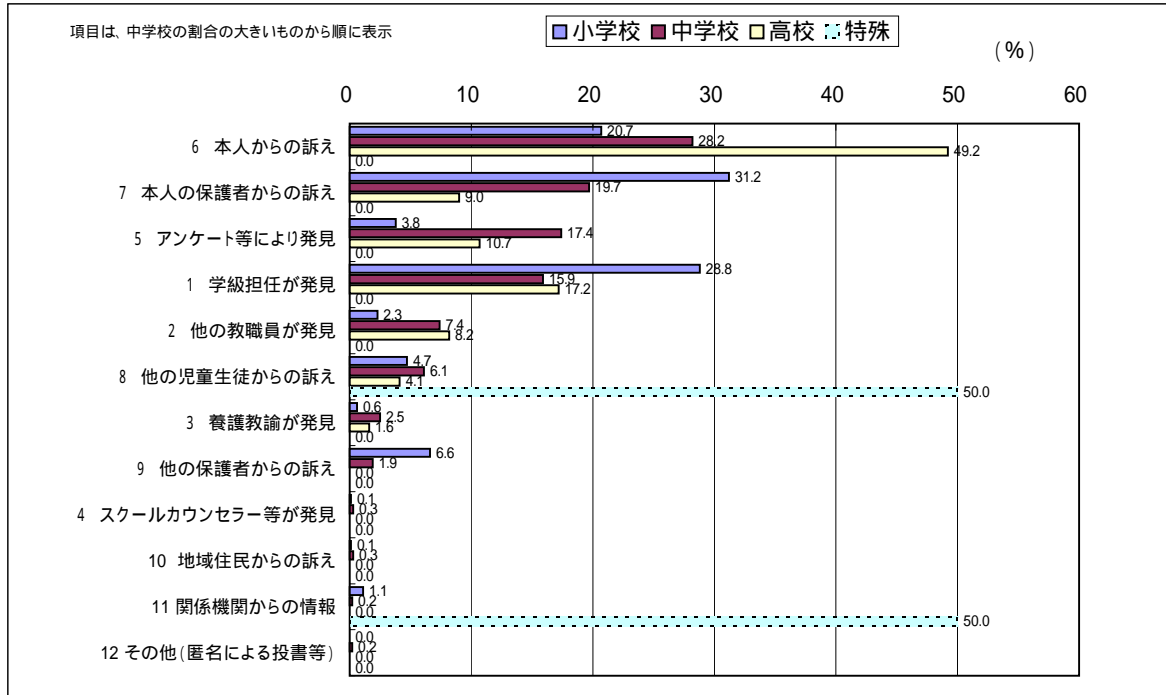
資料：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

# いじめ発見のきっかけ (H18)

本県では、小学校で「学級担任が発見」や「本人の保護者からの訴え」の割合が全国よりも高く、「アンケート等により発見」が低くなっている。

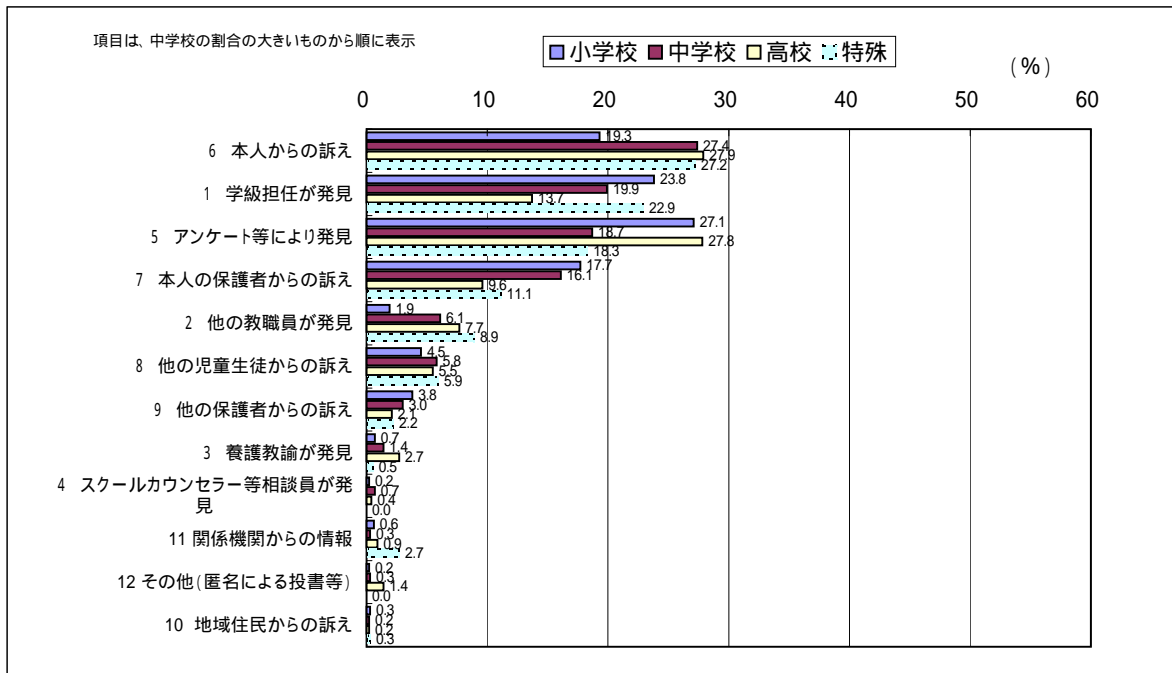
また、高校では、「本人からの訴え」の割合が全国より高く、「アンケート等により発見」が低い。

## 【富山県】



	6 本人からの訴え	7 本人の保護者からの訴え	5 アンケート等により発見	1 学級担任が発見	2 他の教職員が発見	8 他の児童生徒からの訴え	3 養護教諭が発見	9 他の保護者からの訴え	4 スクールカウンセラー等が発見	10 地域住民からの訴え	11 関係機関からの情報	12 その他(匿名による投書等)
小学校	20.7	31.2	3.8	28.8	2.3	4.7	0.6	6.6	0.1	0.1	1.1	0.0
中学校	28.2	19.7	17.4	15.9	7.4	6.1	2.5	1.9	0.3	0.3	0.2	0.2
高校	49.2	9.0	10.7	17.2	8.2	4.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別支援	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

## 【全国】



	6 本人からの訴え	1 学級担任が発見	5 アンケート等により発見	7 本人の保護者からの訴え	2 他の教職員が発見	8 他の児童生徒からの訴え	9 他の保護者からの訴え	3 養護教諭が発見	4 スクールカウンセラー等相談員が発見	11 関係機関からの情報	12 その他(匿名による投書等)	10 地域住民からの訴え
小学校	19.3	23.8	27.1	17.7	1.9	4.5	3.8	0.7	0.2	0.6	0.2	0.3
中学校	27.4	19.9	18.7	16.1	6.1	5.8	3	1.4	0.7	0.3	0.3	0.2
高校	27.9	13.7	27.8	9.6	7.7	5.5	2.1	2.7	0.4	0.9	1.4	0.2
特別支援	27.2	22.9	18.3	11.1	8.9	5.9	2.2	0.5	0	2.7	0	0.3

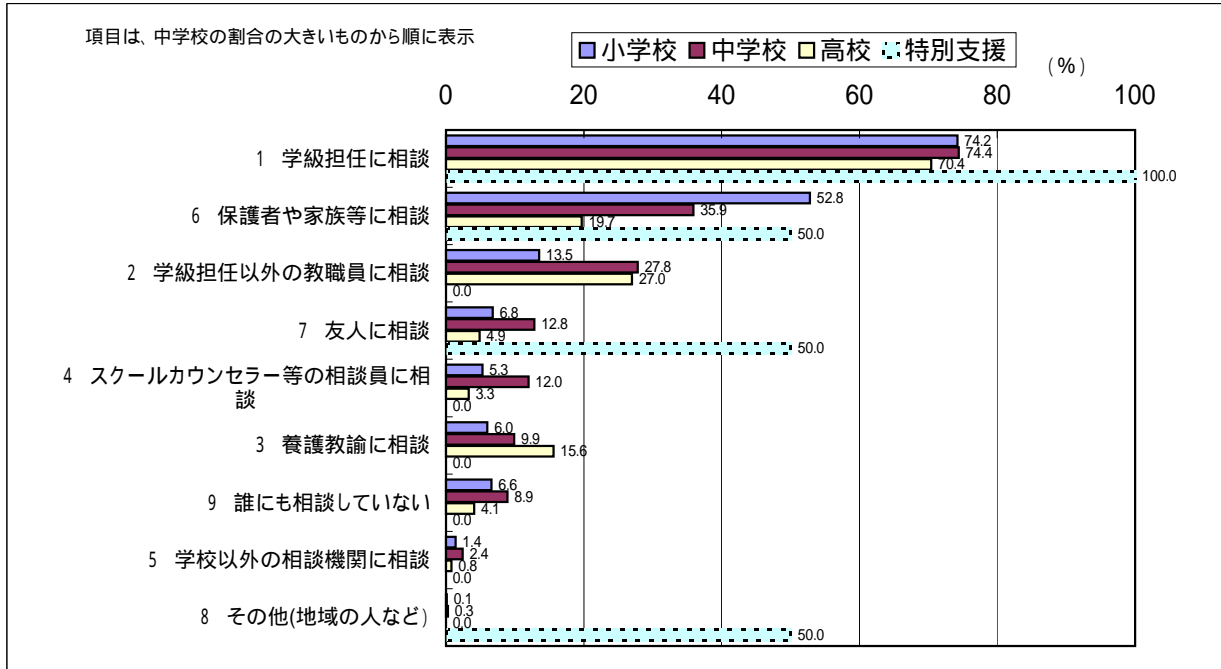
資料:平成18年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

# いじめられた児童生徒の相談の状況（H18）

いじめられた児童生徒の相談相手は、「学級担任」が最も多く、本県では7割を越えている。

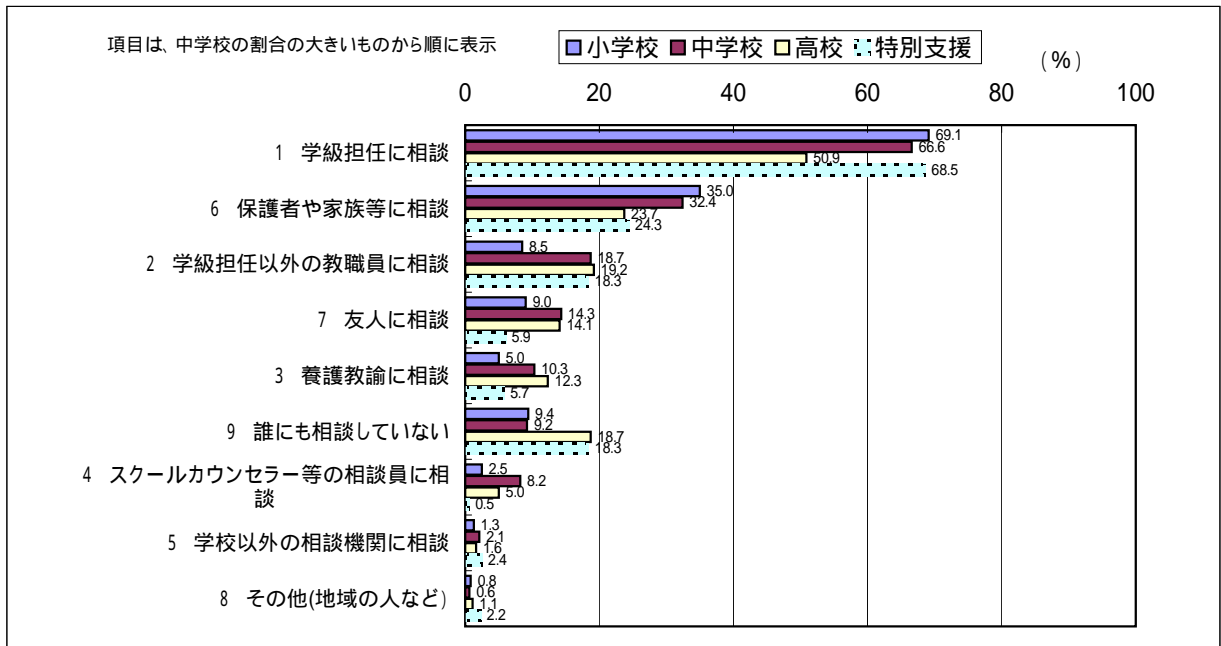
「保護者や家族等への相談」が次いで多く、本県では小学校で特に多い。

## 【富山県】



	1 学級担任に相談	6 保護者や家族等に相談	2 学級担任以外の教職員に相談	7 友人に相談	4 スクールカウンセラー等の相談員に相談	3 養護教諭に相談	9 誰にも相談していない	5 学校以外の相談機関に相談	8 その他(地域の人など)
小学校	74.2	52.8	13.5	6.8	5.3	6.0	6.6	1.4	0.1
中学校	74.4	35.9	27.8	12.8	12.0	9.9	8.9	2.4	0.3
高校	70.4	19.7	27.0	4.9	3.3	15.6	4.1	0.8	0.0
特別支援	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

## 【全国】



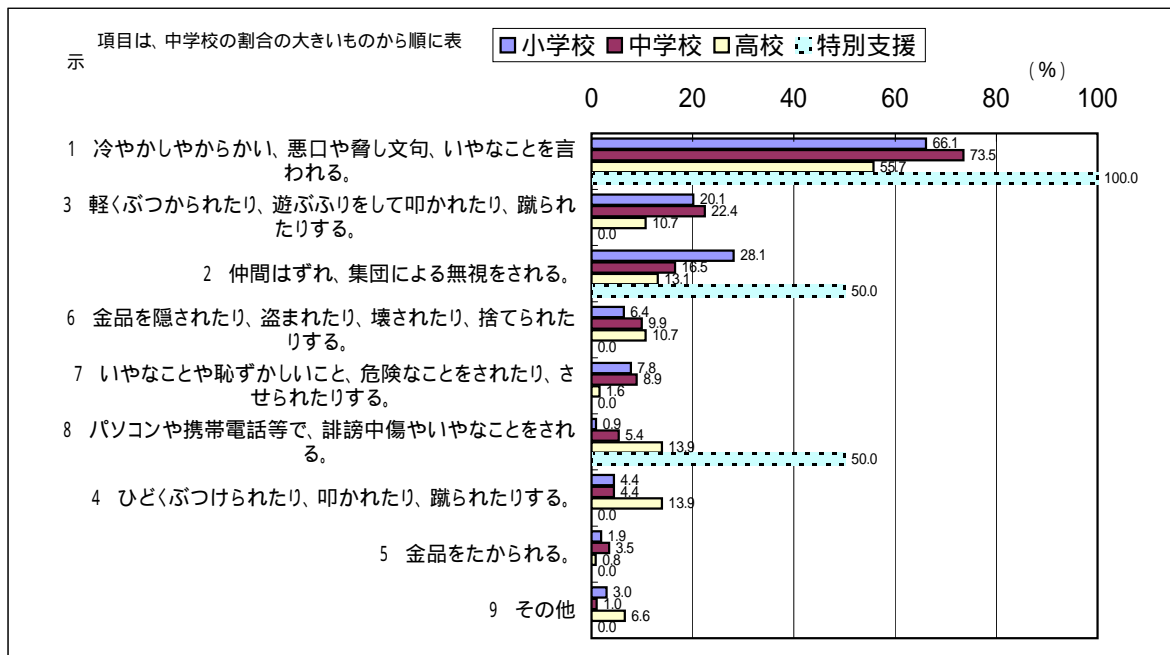
	1 学級担任に相談	6 保護者や家族等に相談	2 学級担任以外の教職員に相談	7 友人に相談	3 養護教諭に相談	9 誰にも相談していない	4 スクールカウンセラー等の相談員に相談	5 学校以外の相談機関に相談	8 その他(地域の人など)
小学校	69.1	35.0	8.5	9.0	5.0	9.4	2.5	1.3	0.8
中学校	66.6	32.4	18.7	14.3	10.3	9.2	8.2	2.1	0.6
高校	50.9	23.7	19.2	14.1	12.3	18.7	5.0	1.6	1.1
特別支援	68.5	24.3	18.3	5.9	5.7	18.3	0.5	2.4	2.2

資料:平成18年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

# いじめの態様 (H18)

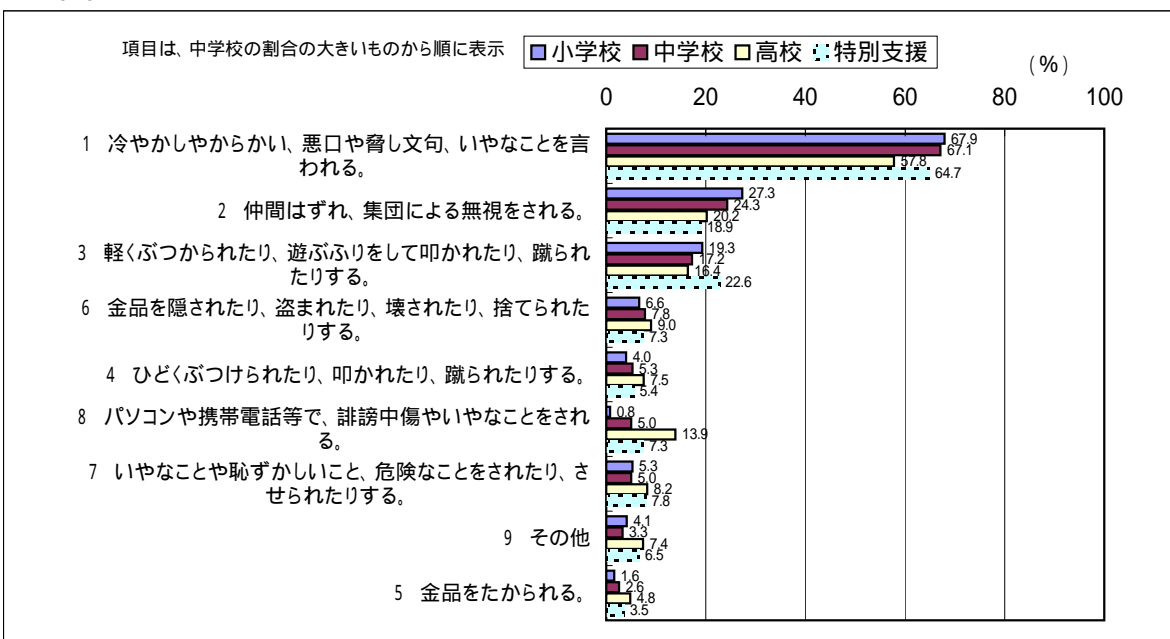
いじめの態様については、「冷やかしゃからかい」が最も多い。  
 「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」は、小中高と進むにつれ増えており、本県の高校では「冷やかしゃからかい」に次いで、2番目に多くなっている。

## 【富山県】



	1 冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。	3 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	2 仲間はずれ、集団による無視をされる。	6 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	7 いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	8 パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	4 ひどくぶつけられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	5 金品をたかられる。	9 その他
小学校	66.1	20.1	28.1	6.4	7.8	0.9	4.4	1.9	3.0
中学校	73.5	22.4	16.5	9.9	8.9	5.4	4.4	3.5	1.0
高校	55.7	10.7	13.1	10.7	1.6	13.9	13.9	0.8	6.6
特別支援	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

## 【全国】



	1 冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。	2 仲間はずれ、集団による無視をされる。	3 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	6 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	4 ひどくぶつけられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	8 パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	7 いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	9 その他	5 金品をたかられる。
小学校	67.9	27.3	19.3	6.6	4.0	0.8	5.3	4.1	1.6
中学校	67.1	24.3	17.2	7.8	5.3	5.0	5.0	3.3	2.6
高校	57.8	20.2	16.4	9.0	7.5	13.9	8.2	7.4	4.8
特別支援	64.7	18.9	22.6	7.3	5.4	7.3	7.8	6.5	3.5

資料：平成18年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

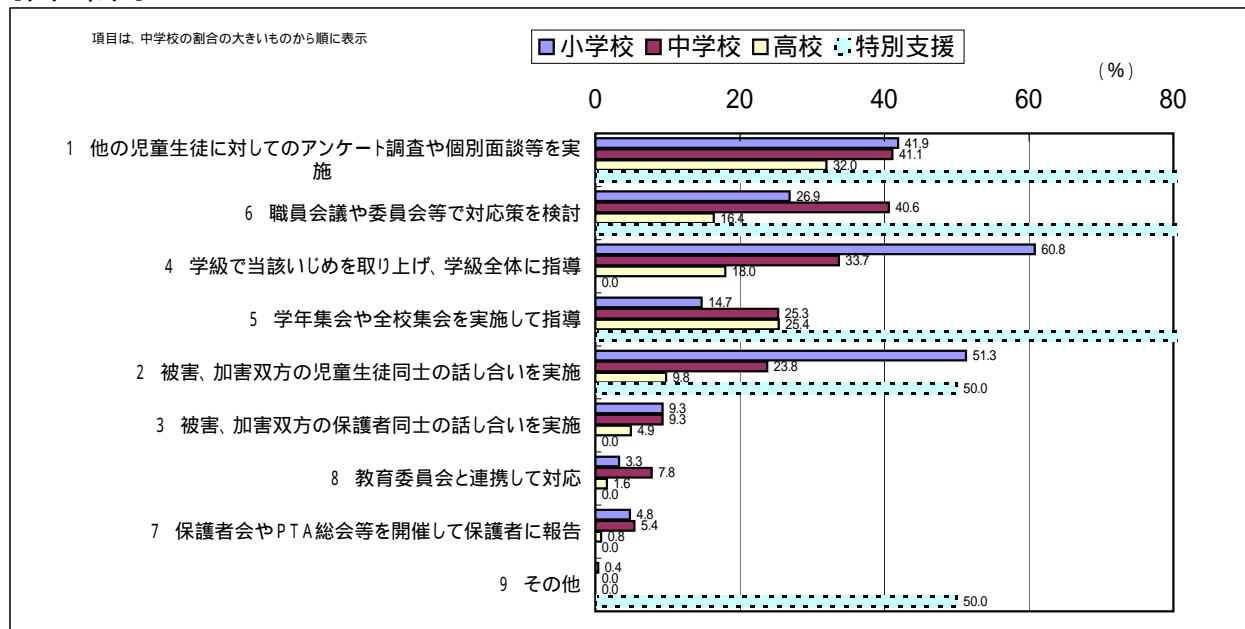


## 個々のいじめへの対応（H18）

本県の小学校では、「学級で当該いじめを取り上げ、学級全体に指導」と「被害、加害双方の児童生徒同士話し合いを実施」の割合が5割を越えており、全国に比べても著しく高くなっている。

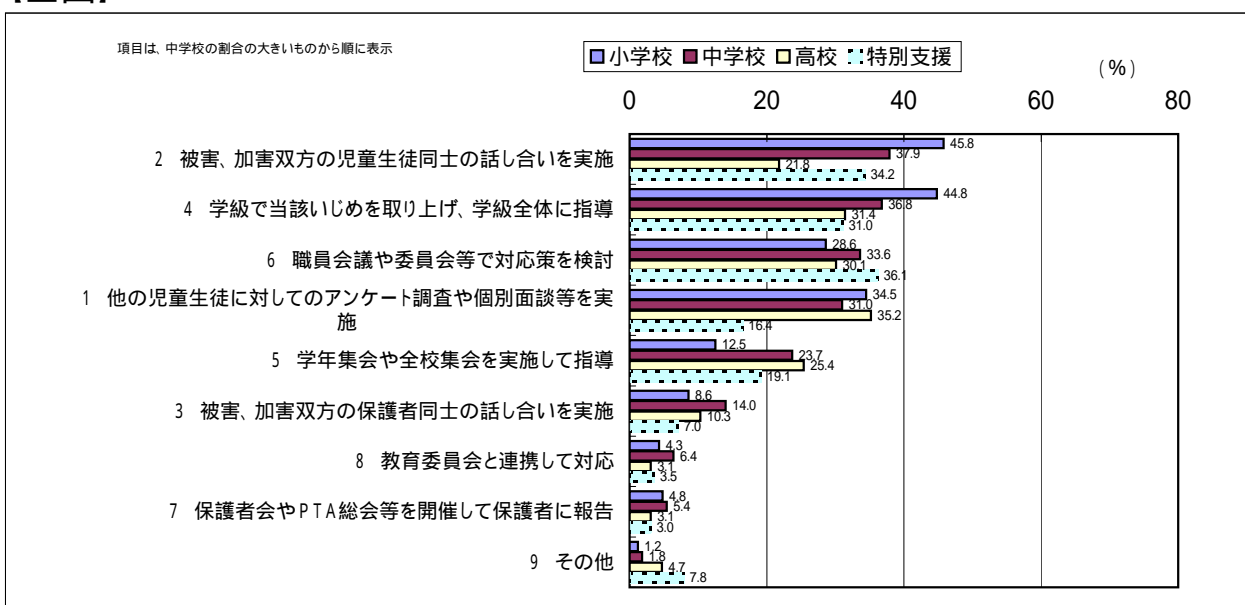
中学校・高校では、「他の児童生徒に対してのアンケート調査や個別面談等を実施」の割合が最も高い。

### 【富山県】



	1 他の児童生徒に対してのアンケート調査や個別面談等を実施	6 職員会議や委員会等で対応策を検討	4 学級で当該いじめを取り上げ、学級全体に指導	5 学年集会や全校集会を実施して指導	2 被害、加害双方の児童生徒同士の話し合いを実施	3 被害、加害双方の保護者同士の話し合いを実施	8 教育委員会と連携して対応	7 保護者会やPTA総会等を開催して保護者に報告	9 その他
小学校	41.9	26.9	60.8	14.7	51.3	9.3	3.3	4.8	0.4
中学校	41.1	40.6	33.7	25.3	23.8	9.3	7.8	5.4	0.0
高校	32.0	16.4	18.0	25.4	9.8	4.9	1.6	0.8	0.0
特別支援	100.0	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0

### 【全国】



	2 被害、加害双方の児童生徒同士の話し合いを実施	4 学級で当該いじめを取り上げ、学級全体に指導	6 職員会議や委員会等で対応策を検討	1 他の児童生徒に対してのアンケート調査や個別面談等を実施	5 学年集会や全校集会を実施して指導	3 被害、加害双方の保護者同士の話し合いを実施	8 教育委員会と連携して対応	7 保護者会やPTA総会等を開催して保護者に報告	9 その他
小学校	45.8	44.8	28.6	34.5	12.5	8.6	4.3	4.8	1.2
中学校	37.9	36.8	33.6	31.0	23.7	14.0	6.4	5.4	1.8
高校	21.8	31.4	30.1	35.2	25.4	10.3	3.1	3.1	4.7
特別支援	34.2	31.0	36.1	16.4	19.1	7.0	3.5	3.0	7.8

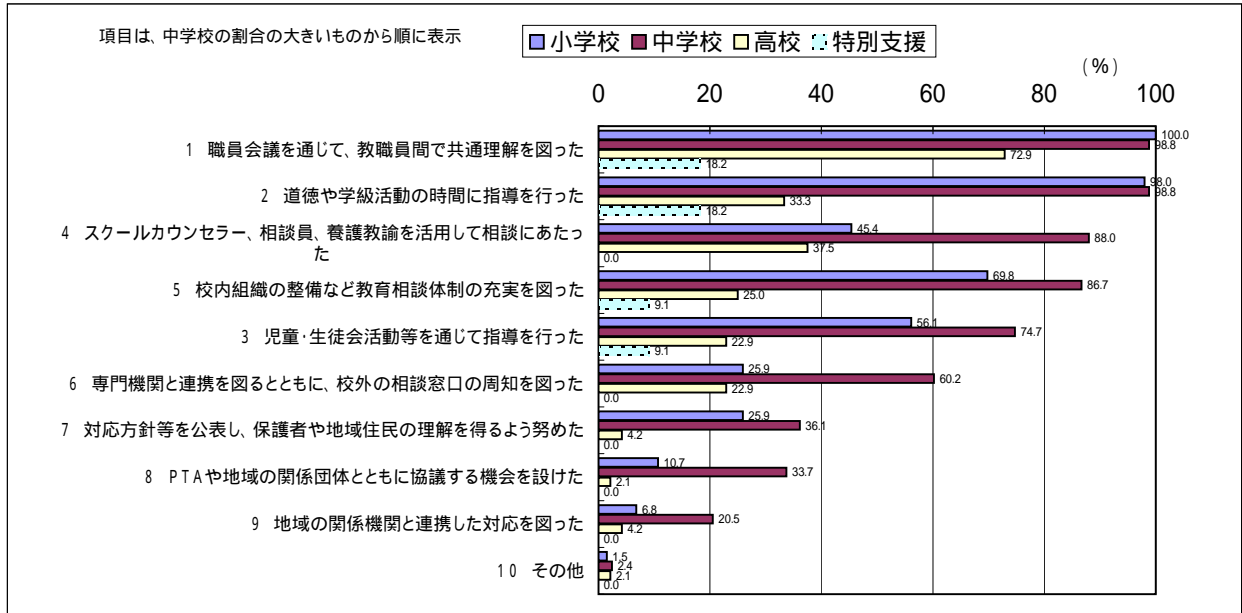
資料：平成18年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文科省）

# 学校におけるいじめの問題に対する日常の取組（H18）

日常の取組としては、本県・全国ともにほとんどの小中学校で「教職員間で共通理解」や「道徳や学級活動の時間に指導」が行われている。

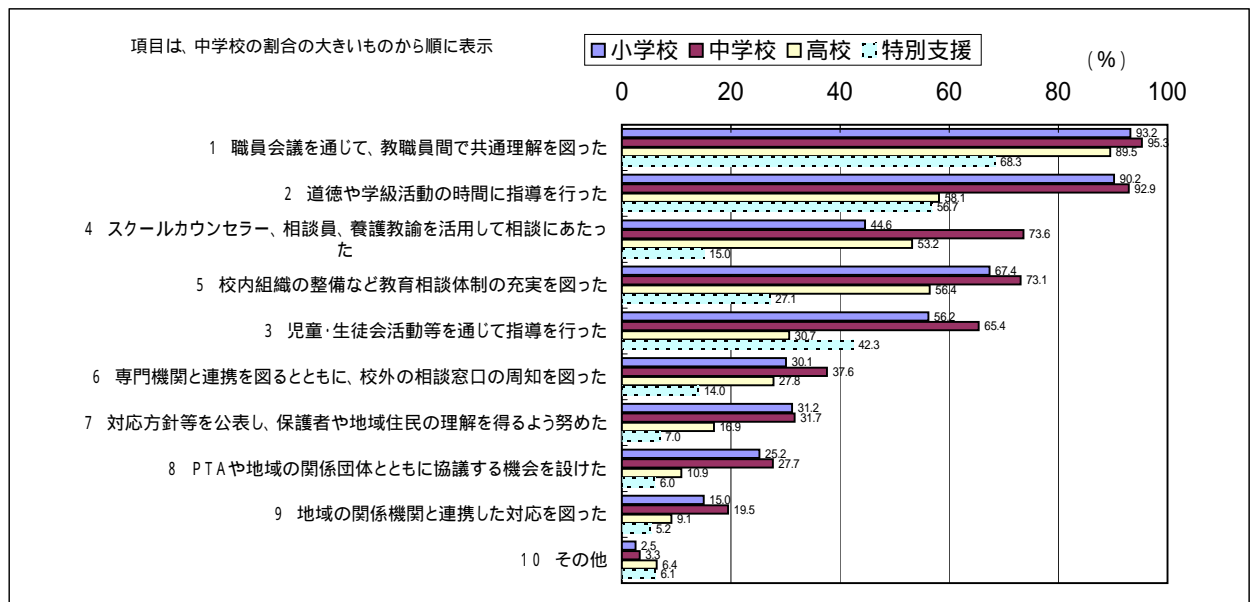
本県では、「スクールカウンセラーの活用」、「専門機関との連携」、「PTAや地域団体との協議」、「地域の関係機関との連携」については、小学校、高校に比べ中学校での取組みの割合が目立って高くなっている。

## 【富山県】



	1 職員会議を通じて、教職員間で共通理解を図った	2 道徳や学級活動の時間に指導を行った	4 スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を活用して相談にあたった	5 校内組織の整備など教育相談体制の充実を図った	3 児童・生徒会活動等を通じて指導を行った	6 専門機関と連携を図るとともに、校外の相談窓口の周知を図った	7 対応方針等を公表し、保護者や地域住民の理解を得よう努めた	8 PTAや地域の関係団体とともに協議する機会を設けた	9 地域の関係機関と連携した対応を図った	10 その他
小学校	100.0	98.0	45.4	69.8	56.1	25.9	25.9	10.7	6.8	1.5
中学校	98.8	98.8	88.0	86.7	74.7	60.2	36.1	33.7	20.5	2.4
高校	72.9	33.3	37.5	25.0	22.9	22.9	4.2	2.1	4.2	2.1
特別支援	18.2	18.2	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 【全国】



	1 職員会議を通じて、教職員間で共通理解を図った	2 道徳や学級活動の時間に指導を行った	4 スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を活用して相談にあたった	5 校内組織の整備など教育相談体制の充実を図った	3 児童・生徒会活動等を通じて指導を行った	6 専門機関と連携を図るとともに、校外の相談窓口の周知を図った	7 対応方針等を公表し、保護者や地域住民の理解を得よう努めた	8 PTAや地域の関係団体とともに協議する機会を設けた	9 地域の関係機関と連携した対応を図った	10 その他
小学校	93.2	90.2	44.6	67.4	56.2	30.1	31.2	25.2	15.0	2.5
中学校	95.3	92.9	73.6	73.1	65.4	37.6	31.7	27.7	19.5	3.3
高校	89.5	58.1	53.2	56.4	30.7	27.8	16.9	10.9	9.1	6.4
特別支援	68.3	56.7	15.0	27.1	42.3	14.0	7.0	6.0	5.2	6.1

資料：平成18年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（文科省）

## 不登校の定義

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)における「不登校」については、学校基本調査(文部科学省)の小中学校における理由別長期欠席者数(1年間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒数)において、「不登校」に該当するものとしている。

「不登校」...何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあるもの  
(ただし、「病気」や「経済的な理由」によるものを除く。)

なお、欠席状態が長期に断続している理由が、学校生活上の影響、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否及びこれらの複合等であるもの

### 具体例

- ・ 学校生活上の影響...いやがらせをする生徒の存在や、教師との人間関係等、明らかにそれと理解できる学校生活上の影響から登校しない(できない)。
- ・ あそび・非行...遊ぶためや非行グループに入ったりして登校できない。
- ・ 無気力...無気力でなんとなく登校しない。登校しないことへの罪悪感が少なく、迎えに行ったり強く催促すると登校するが長続きしない。
- ・ 不安など情緒的混乱...登校の意志はあるが身体の不調を訴え登校できない。漠然とした不安を訴え登校しない等、不安を中心とした情緒的な混乱によって登校しない(できない)。
- ・ 意図的な拒否...学校に行く意義を認めず、自分の好きな方向を選んで登校しない。
- ・ 複合...不登校状態が継続している理由が上記具体例と複合していていずれが主であるかを決めがたい。

出典：学校基本調査報告書(初等中等教育機関 専修学校・各種学校編)文部科学省

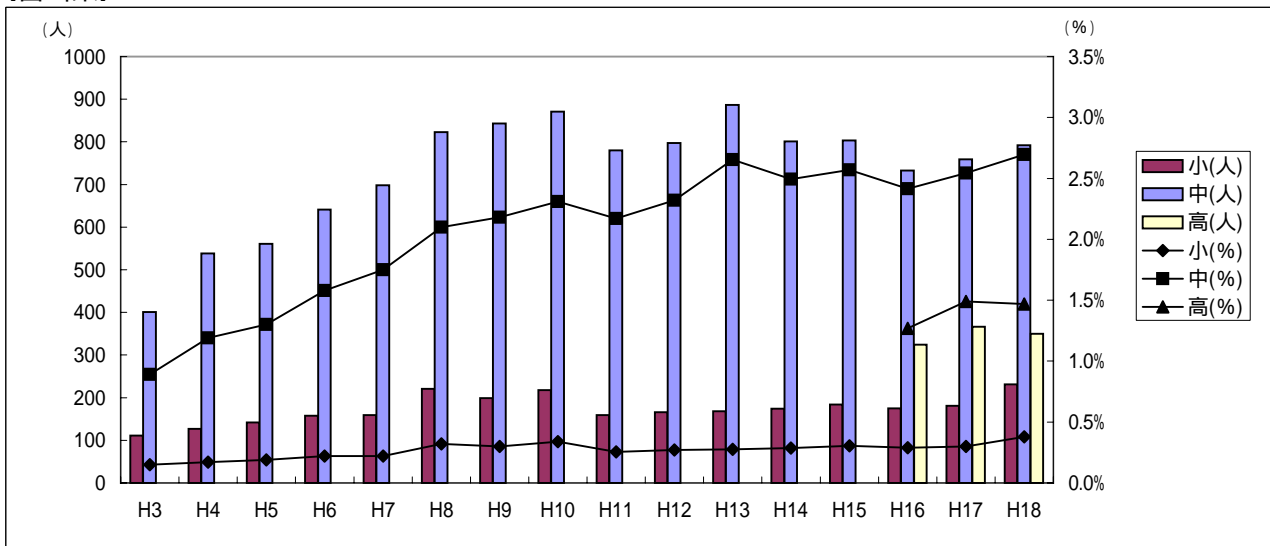
## 不登校児童生徒数・出現率の推移

子どもの数が減少傾向にある中、全国的には、不登校児童生徒数は、近年横ばい状態にある。

本県の不登校児童生徒の出現率は、H3年度とH18年度を比べると、小学校で2.5倍、中学校で3.0倍になっている。

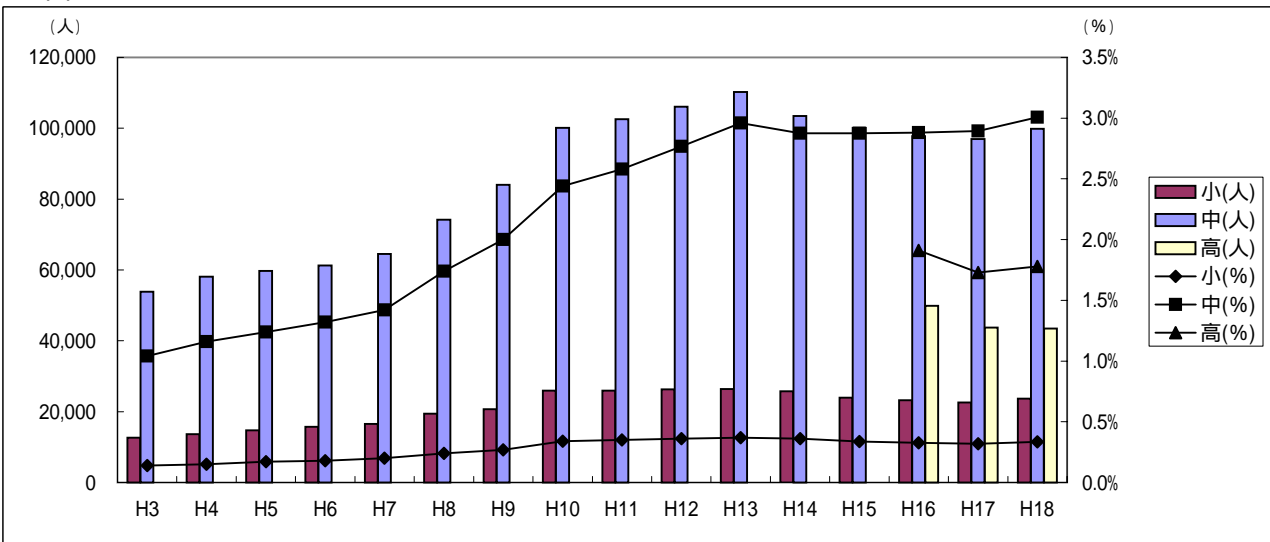
また、H18年度の校種別出現率は、中学校2.70%(37人に1人)が最も高く、小学校0.38%(263人に1人)の約7倍となっている。(高校1.47%は68人に1人)

### 【富山県】



		H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
不登校児童生徒数	小(人)	111	127	142	158	159	221	199	218	159	166	168	174	184	175	181	231
	中(人)	401	538	561	641	698	823	843	871	780	797	887	801	803	733	759	792
	高(人)														324	366	350
出現率	小(%)	0.15%	0.17%	0.19%	0.22%	0.22%	0.32%	0.30%	0.34%	0.25%	0.27%	0.28%	0.29%	0.30%	0.29%	0.30%	0.38%
	中(%)	0.89%	1.19%	1.30%	1.58%	1.75%	2.10%	2.18%	2.31%	2.17%	2.32%	2.65%	2.49%	2.57%	2.41%	2.54%	2.70%
	高(%)														1.27%	1.49%	1.47%

### 【全国】



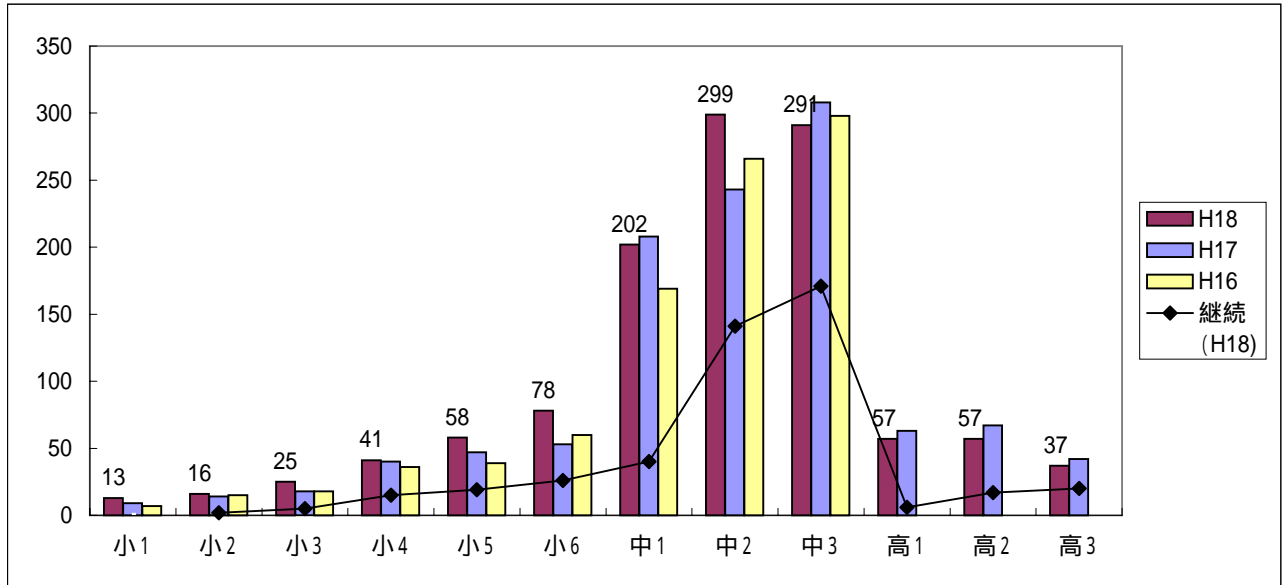
		H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
不登校児童生徒数	小(人)	12,628	13,669	14,709	15,735	16,516	19,445	20,701	25,910	25,904	26,262	26,414	25,762	23,967	23,189	22,566	23,643
	中(人)	53,897	58,107	59,723	61,293	64,522	74,222	84,026	100,112	102,527	106,087	110,216	103,483	100,088	97,798	96,972	99,857
	高(人)														49,860	43,691	43,508
出現率	小(%)	0.14%	0.15%	0.17%	0.18%	0.20%	0.24%	0.27%	0.34%	0.35%	0.36%	0.37%	0.36%	0.34%	0.33%	0.32%	0.33%
	中(%)	1.04%	1.16%	1.24%	1.32%	1.42%	1.74%	2.00%	2.44%	2.58%	2.77%	2.96%	2.88%	2.87%	2.88%	2.89%	3.01%
	高(%)														1.91%	1.73%	1.78%

資料：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

# 不登校児童生徒数の学年別内訳

不登校児童生徒数は、中1で急増するが、高1で急減している。  
 不登校状態が前年度から継続している児童生徒の割合は、中学校までは学年が進むにつれ増加している。特に、中学1年から2年にかけて急増している。

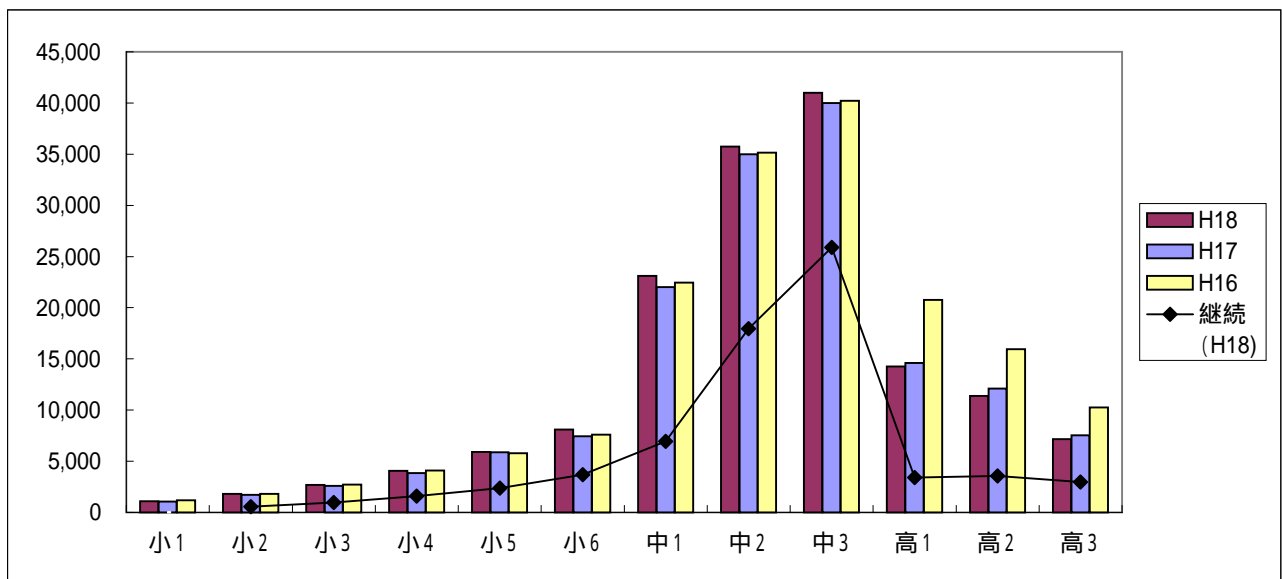
## 【富山県】



区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H18	13	16	25	41	58	78	202	299	291	57	57	37
H17	9	14	18	40	47	53	208	243	308	63	67	42
H16	7	15	18	36	39	60	169	266	298			
前年度からの継続数 (H18)		2	5	15	19	26	40	141	171	6	17	20

高1～高3には単位制高校は含まれない

## 【全国】



区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H18	1,079	1,801	2,687	4,062	5,915	8,099	23,111	35,744	41,002	14,247	11,374	7,171
H17	1,059	1,731	2,610	3,856	5,872	7,438	22,002	34,987	39,983	14,596	12,094	7,550
H16	1,175	1,811	2,721	4,090	5,791	7,601	22,447	35,151	40,200	20,768	15,953	10,244
前年度からの継続数 (H18)		556	956	1,599	2,386	3,698	6,954	17,953	25,892	3,409	3,574	2,976

高1～高3には単位制高校は含まれない

資料：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

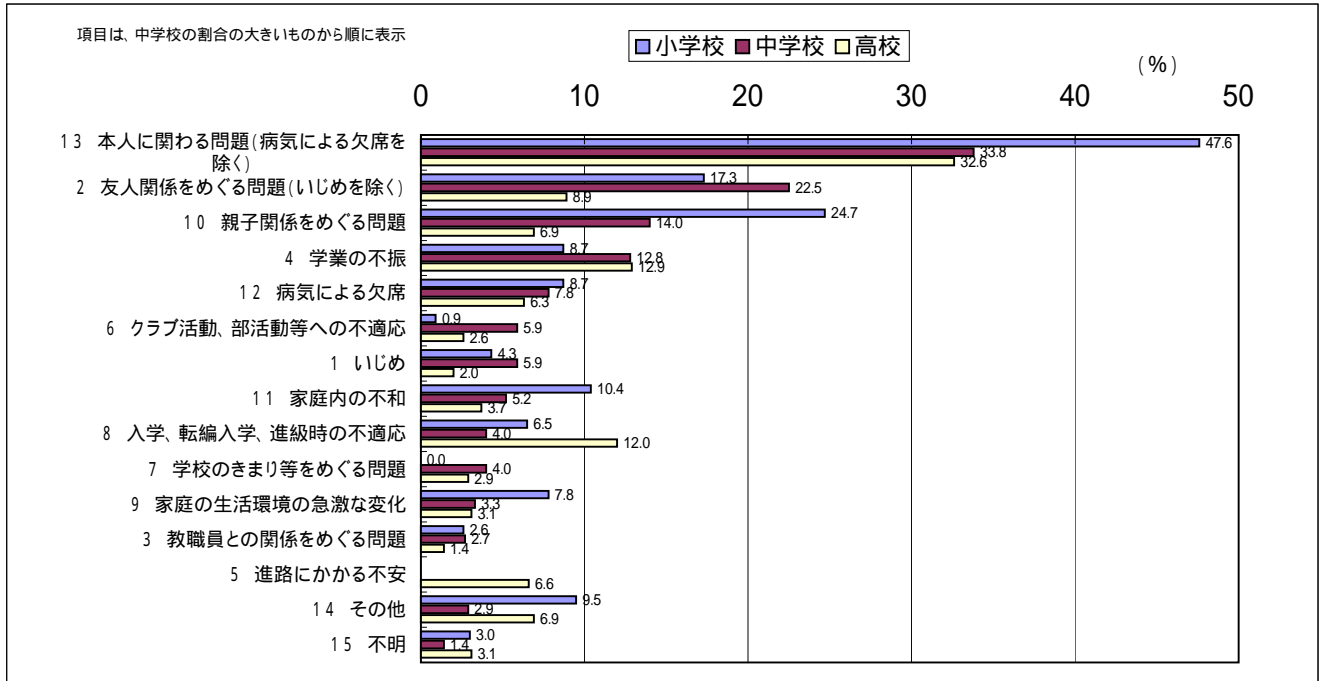
# 不登校となったきっかけと考えられる状況（H18）

どの校種においても極度の不安や緊張など「本人に関わる問題」が最も大きな割合を占めている。特に本県の小学校では、全国を大きく上回っている。

次いで、小学校では「親子関係をめぐる問題」、中学校では「友人関係をめぐる問題」、高校では「学業の不振」が多くなっている。

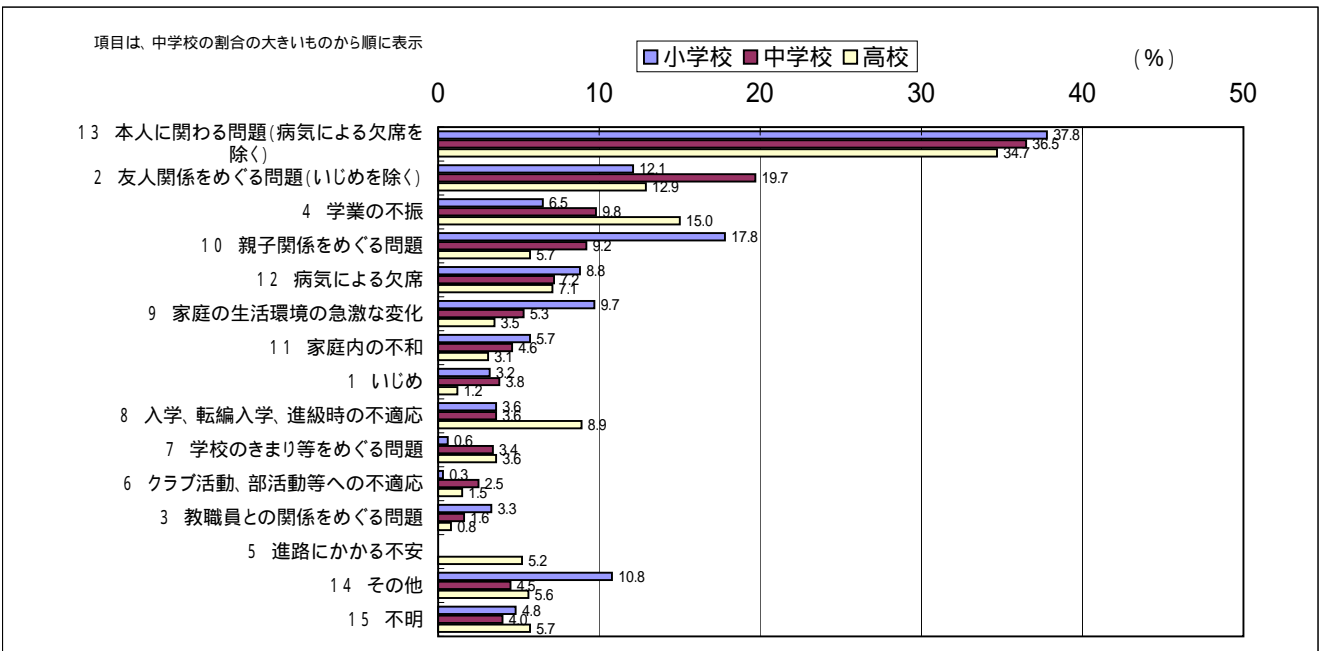
高校では、「入学、転編入学、進級時の不適応」の割合も高くなっている。

## 【富山県】



	13 本人に関わる問題(病気による欠席を除く)	2 友人関係をめぐる問題(いじめを除く)	10 親子関係をめぐる問題	4 学業の不振	12 病気による欠席	6 クラブ活動、部活動等への不適応	1 いじめ	11 家庭内の不和	8 入学、転編入学、進級時の不適応	7 学校のきまり等をめぐる問題	9 家庭の生活環境の急激な変化	3 教職員との関係をめぐる問題	5 進路にかかる不安	14 その他	15 不明
小学校	47.6	17.3	24.7	8.7	8.7	0.9	4.3	10.4	6.5	0.0	7.8	2.6	6.6	9.5	3.0
中学校	33.8	22.5	14.0	12.8	7.8	5.9	5.9	5.2	4.0	4.0	3.3	2.7	6.6	2.9	1.4
高校	32.6	8.9	6.9	12.9	6.3	2.6	2.0	3.7	12.0	2.9	3.1	1.4	6.6	6.9	3.1

## 【全国】



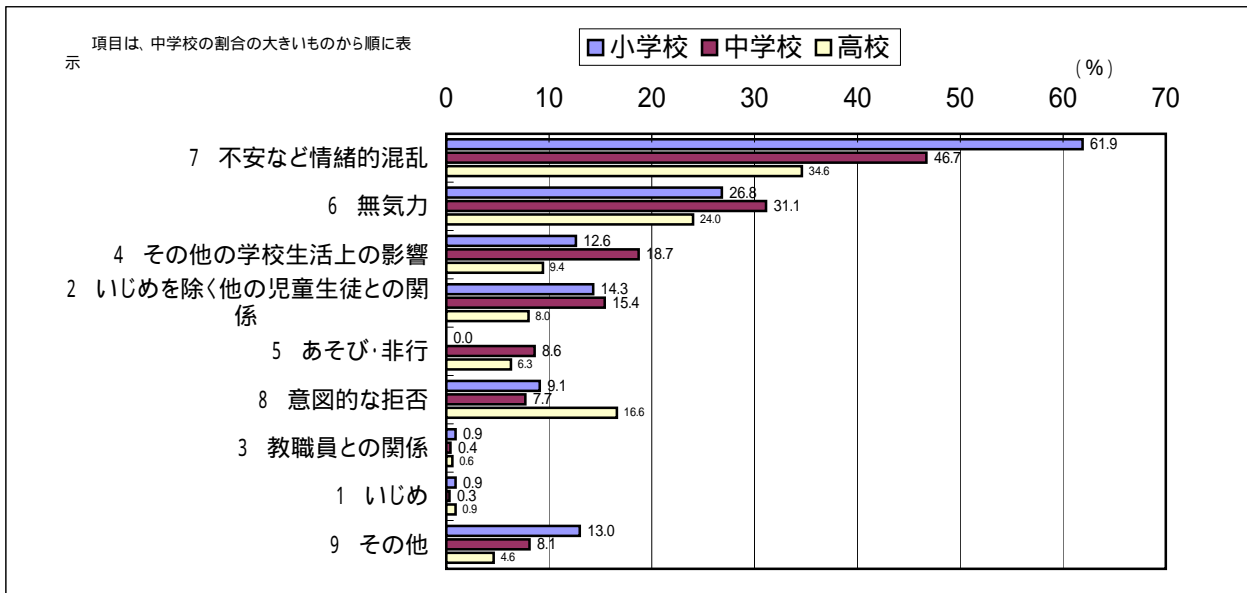
	13 本人に関わる問題(病気による欠席を除く)	2 友人関係をめぐる問題(いじめを除く)	4 学業の不振	10 親子関係をめぐる問題	12 病気による欠席	9 家庭の生活環境の急激な変化	11 家庭内の不和	1 いじめ	8 入学、転編入学、進級時の不適応	7 学校のきまり等をめぐる問題	6 クラブ活動、部活動等への不適応	3 教職員との関係をめぐる問題	5 進路にかかる不安	14 その他	15 不明
小学校	37.8	12.1	6.5	17.8	8.8	9.7	5.7	3.2	3.6	0.6	0.3	3.3	5.2	10.8	4.8
中学校	36.5	19.7	9.8	9.2	7.2	5.3	4.6	3.8	3.6	3.4	2.5	1.6	5.2	4.5	4.0
高校	34.7	12.9	15.0	5.7	7.1	3.5	3.1	1.2	8.9	3.6	1.5	0.8	5.2	5.6	5.7

資料：平成18年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

## 不登校状態が継続している理由（H18）

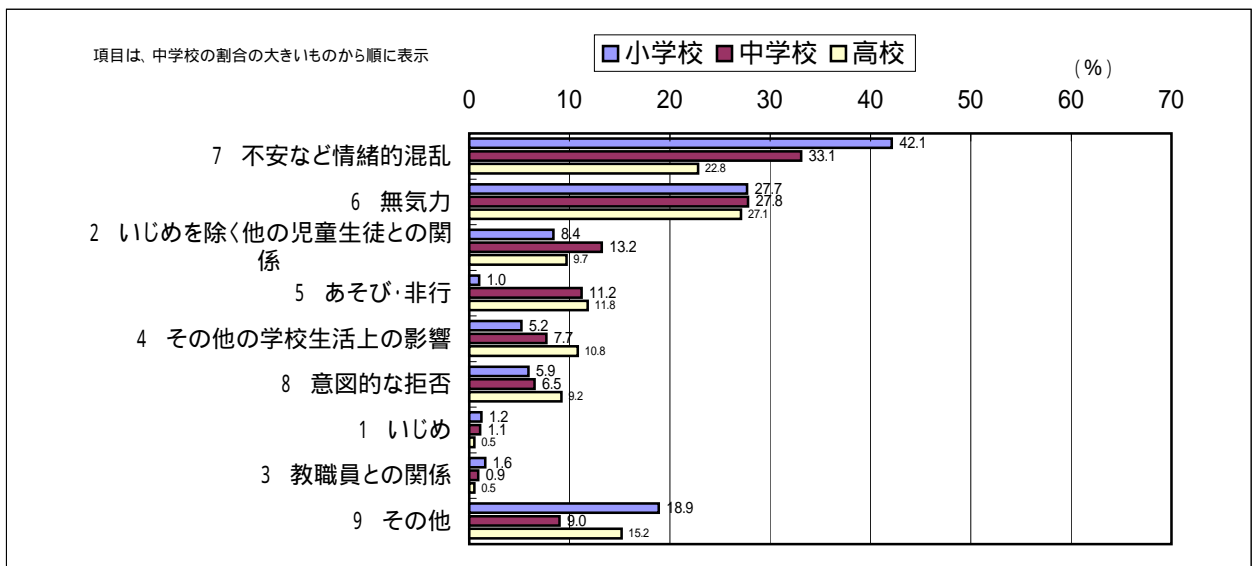
本県では、どの校種においても、「不安など情緒的混乱」が最も多く、いずれも全国を10ポイント以上上回っている。  
次いで「無気力」が多くなっている。

### 【富山県】



	7 不安など情緒的混乱	6 無気力	4 その他の学校生活上の影響	2 いじめを除く他の児童生徒との関係	5 あそび・非行	8 意図的な拒否	3 教職員との関係	1 いじめ	9 その他
小学校	61.9	26.8	12.6	14.3	0.0	9.1	0.9	0.9	13.0
中学校	46.7	31.1	18.7	15.4	8.6	7.7	0.4	0.3	8.1
高校	34.6	24.0	9.4	8.0	6.3	16.6	0.6	0.9	4.6

### 【全国】



	7 不安など情緒的混乱	6 無気力	2 いじめを除く他の児童生徒との関係	5 あそび・非行	4 その他の学校生活上の影響	8 意図的な拒否	1 いじめ	3 教職員との関係	9 その他
小学校	42.1	27.7	8.4	1.0	5.2	5.9	1.2	1.6	18.9
中学校	33.1	27.8	13.2	11.2	7.7	6.5	1.1	0.9	9.0
高校	22.8	27.1	9.7	11.8	10.8	9.2	0.5	0.5	15.2

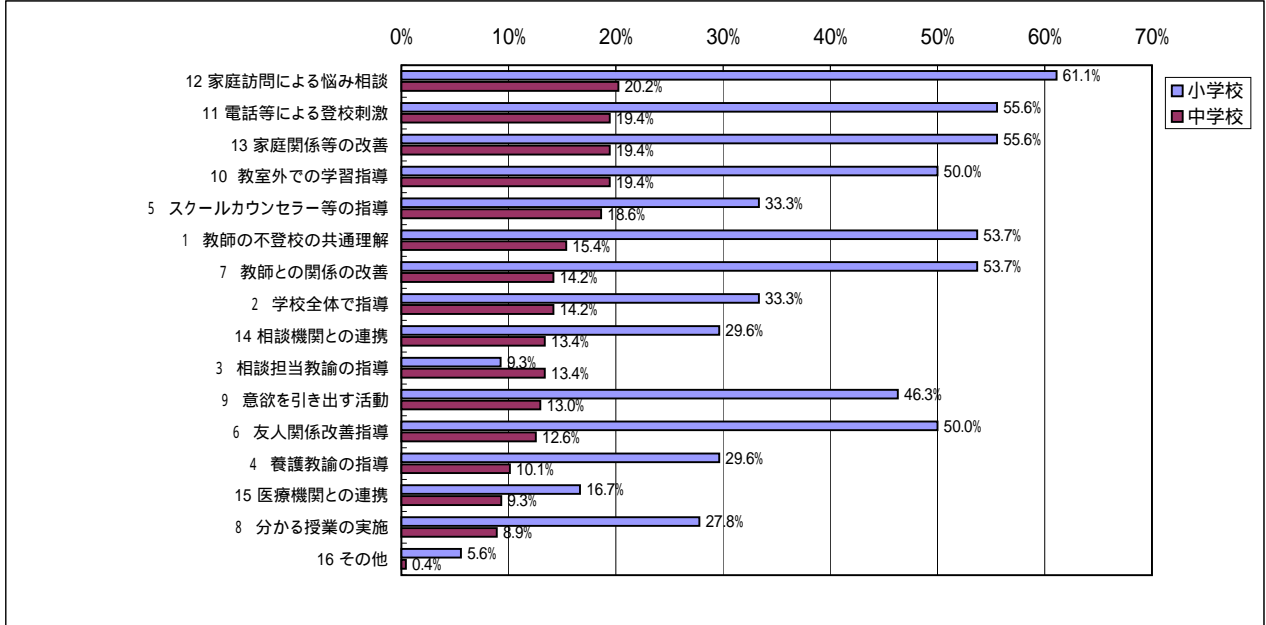
資料：平成18年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

## 登校できるようになった不登校児童生徒に対し効果のあった措置(H18)

小・中学校ともに「家庭訪問による悩み相談」「電話等による登校刺激」が効果的であったとする割合が高い。

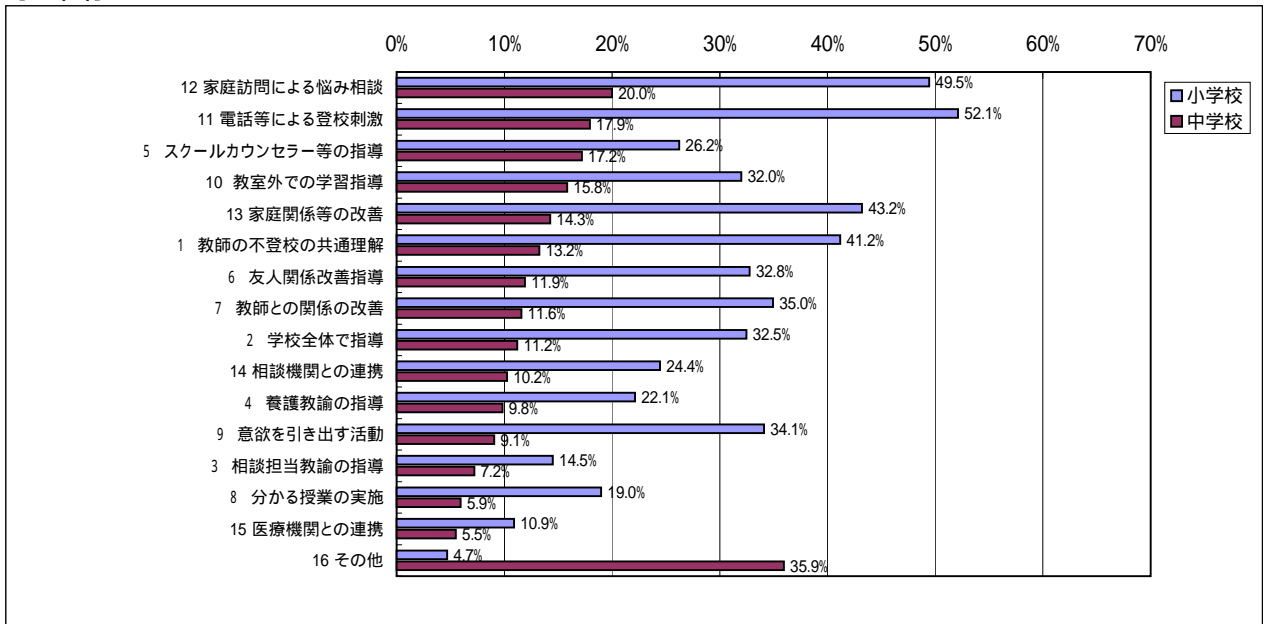
ほとんどの措置で、小学校の方が中学校より効果があったとする割合が高い。また、本県の方が全国に比べ効果があったとする割合が高い。

### 【富山県】 構成比は、登校できるようになった児童生徒に対する割合



	12 家庭訪問による悩み相談	11 電話等による登校刺激	13 家庭関係等の改善	10 教室外での学習指導	5 スクールカウンセラー等の指導	1 教師の不登校の共通理解	7 教師との関係の改善	2 学校全体で指導	14 相談機関との連携	3 相談担当教諭の指導	9 意欲を引き出す活動	6 友人関係改善指導	4 養護教諭の指導	15 医療機関との連携	8 分かる授業の実施	16 その他
小学校	61.1%	55.6%	55.6%	50.0%	33.3%	53.7%	53.7%	33.3%	29.6%	9.3%	46.3%	50.0%	29.6%	16.7%	27.8%	5.6%
中学校	20.2%	19.4%	19.4%	19.4%	18.6%	15.4%	14.2%	14.2%	13.4%	13.4%	13.0%	12.6%	10.1%	9.3%	8.9%	0.4%

### 【全国】



	12 家庭訪問による悩み相談	11 電話等による登校刺激	5 スクールカウンセラー等の指導	10 教室外での学習指導	13 家庭関係等の改善	1 教師の不登校の共通理解	6 友人関係改善指導	7 教師との関係の改善	2 学校全体で指導	14 相談機関との連携	4 養護教諭の指導	9 意欲を引き出す活動	3 相談担当教諭の指導	8 分かる授業の実施	15 医療機関との連携	16 その他
小学校	49.5%	52.1%	26.2%	32.0%	43.2%	41.2%	32.8%	35.0%	32.5%	24.4%	22.1%	34.1%	14.5%	19.0%	10.9%	4.7%
中学校	20.0%	17.9%	17.2%	15.8%	14.3%	13.2%	11.9%	11.6%	11.2%	10.2%	9.8%	9.1%	7.2%	5.9%	5.5%	35.9%

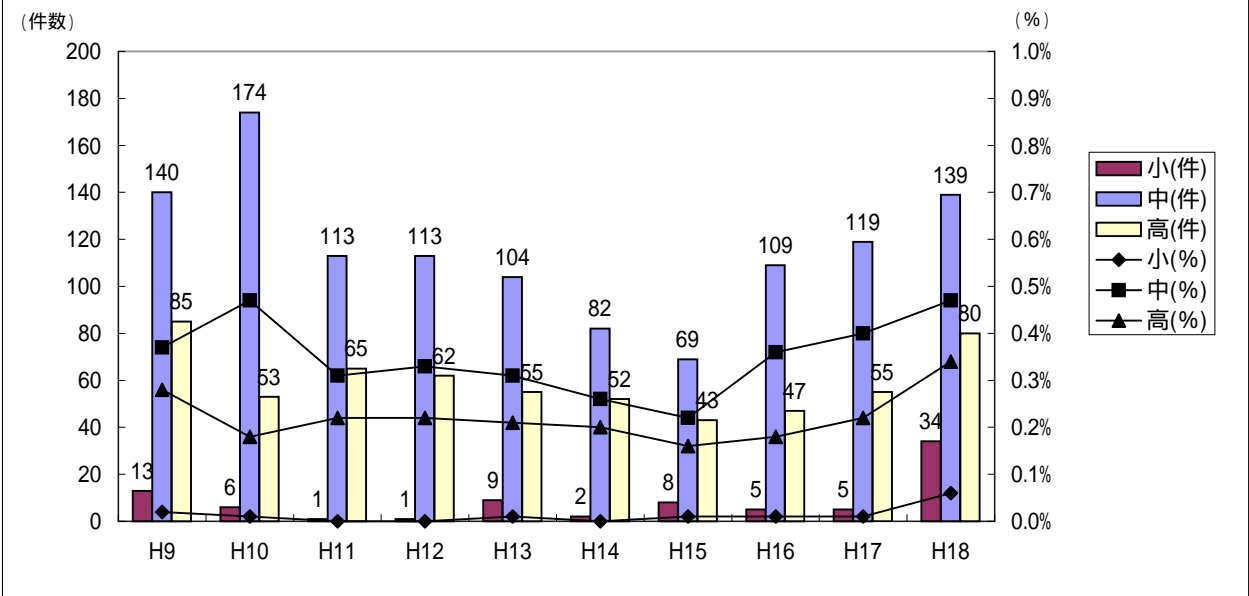
資料：平成18年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)



# 暴力行為発生件数・発生率の推移

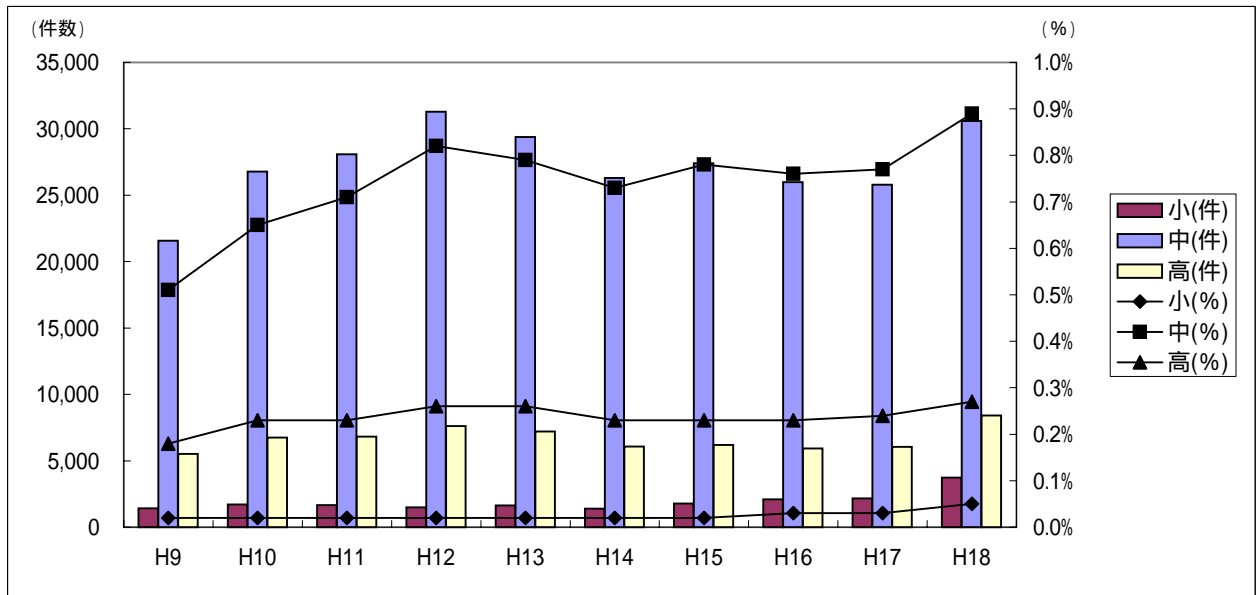
本県の校種別暴力行為発生率(H18)は、中学校の0.47%(213人に1人)が最も高いが、中学校は全国平均(0.89%:112人に1人)を大きく下回っている。  
 本県小学校(0.06%)と高校(0.34%)のH18年度の発生率は、全国平均を上回っている。

## 【富山県】



		H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
暴力行為 件数	小(件)	13	6	1	1	9	2	8	5	5	34
	中(件)	140	174	113	113	104	82	69	109	119	139
	高(件)	85	53	65	62	55	52	43	47	55	80
発生率	小(%)	0.02%	0.01%	0.00%	0.00%	0.01%	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%	0.06%
	中(%)	0.37%	0.47%	0.31%	0.33%	0.31%	0.26%	0.22%	0.36%	0.40%	0.47%
	高(%)	0.28%	0.18%	0.22%	0.22%	0.21%	0.20%	0.16%	0.18%	0.22%	0.34%

## 【全国】



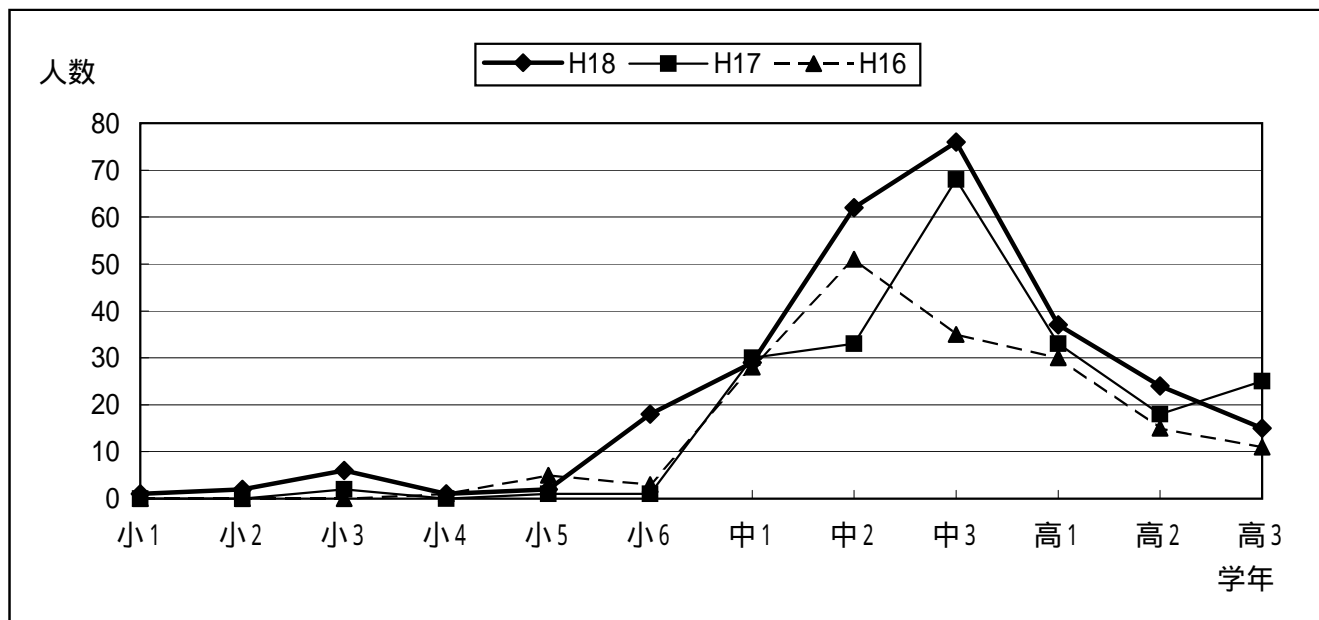
		H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
暴力行為 件数	小(件)	1,432	1,706	1,668	1,483	1,630	1,393	1,777	2,100	2,176	3,740
	中(件)	21,585	26,783	28,077	31,285	29,388	26,295	27,414	25,984	25,796	30,593
	高(件)	5,509	6,743	6,833	7,606	7,213	6,077	6,201	5,938	6,046	8,419
発生率	小(%)	0.02%	0.02%	0.02%	0.02%	0.02%	0.02%	0.02%	0.03%	0.03%	0.05%
	中(%)	0.51%	0.65%	0.71%	0.82%	0.79%	0.73%	0.78%	0.76%	0.77%	0.89%
	高(%)	0.18%	0.23%	0.23%	0.26%	0.26%	0.23%	0.23%	0.23%	0.23%	0.24%

資料:児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

## 暴力行為の学年別加害児童生徒数

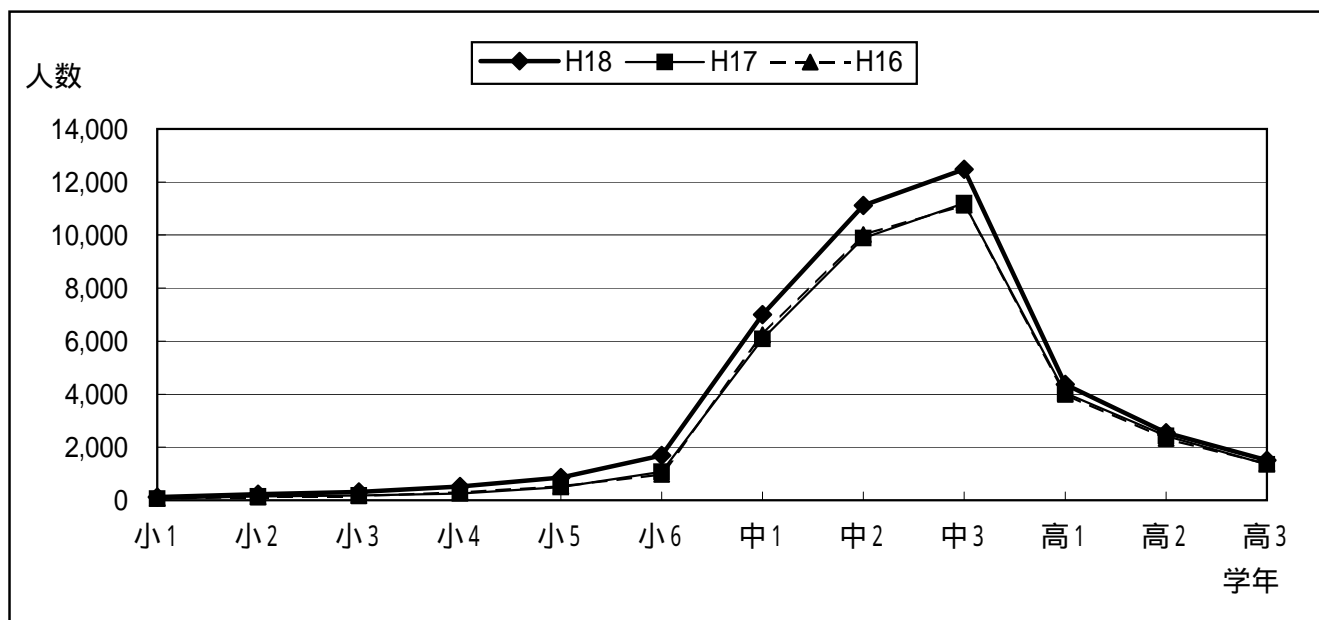
暴力行為の加害者数は、全国的には中学1年生で急増し、中学3年生が最も多いが、高校1年生で急減している。本県においても、ほぼ同じ傾向を示している。

### 【富山県】



区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H18	1	2	6	1	2	18	29	62	76	37	24	15
H17	0	0	2	0	1	1	30	33	68	33	18	25
H16	0	0	0	1	5	3	28	51	35	30	15	11

### 【全国】



区分	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
H18	123	232	315	518	861	1,691	7,004	11,113	12,476	4,367	2,543	1,509
H17	56	139	179	252	494	1,075	6,078	9,880	11,197	4,048	2,431	1,357
H16	76	119	164	300	533	974	6,240	10,016	11,127	3,991	2,328	1,375

資料: 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文科省)

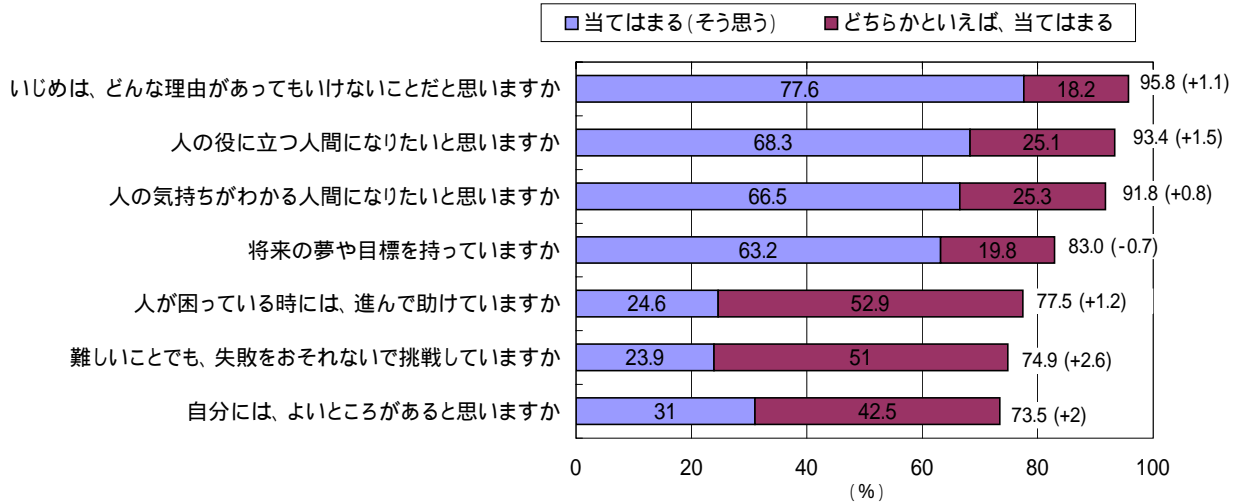
平成19年度 全国学力・学習状況調査結果から見た本県児童・生徒の意識・行動(1)

意識等

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思う割合は、中学生では6割にまで下がっている。  
 「自分には、よいところがあると思う」割合が小学校で3割、中学校で2割程度に過ぎず、自尊感情に乏しい。  
 小・中学生ともに「人の役に立つ人間になりたい」や「人の気持ちがわかる人間になりたい」と思う者は多いが、「人が困っている時には、進んで助ける」という行為にまでつながっていない者がかなりいると考えられる。

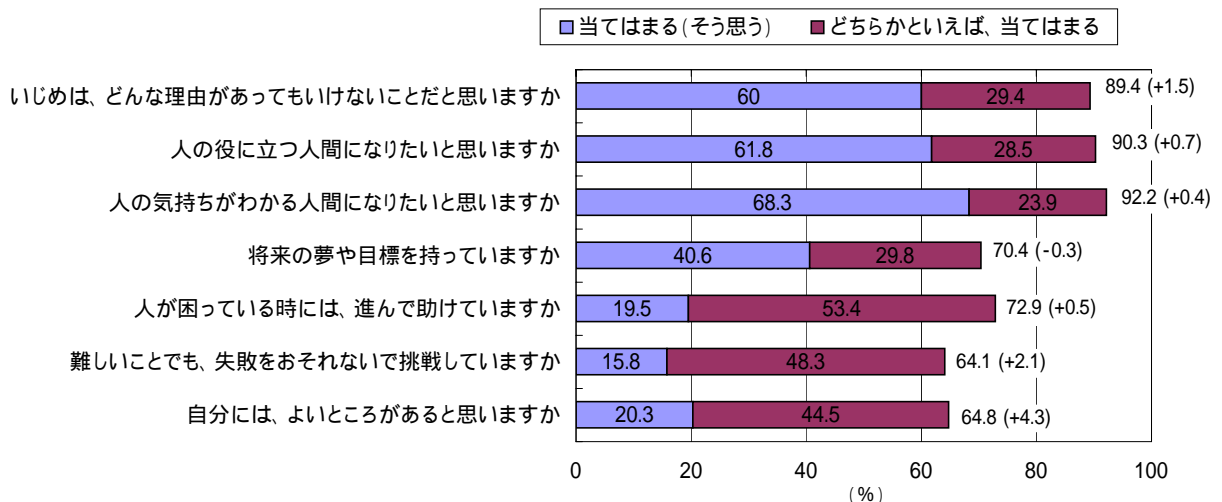
小学校6年生(富山県)

合計の後の( )内の値は、全国との差



	富山県			全国		
	当てはまる(そう思う)	どちらかといえば、当てはまる	計	当てはまる(そう思う)	どちらかといえば、当てはまる	計
1 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか	77.6	18.2	95.8	76.1	18.6	94.7
2 人の役に立つ人間になりたいと思いませんか	68.3	25.1	93.4	66.2	25.7	91.9
3 人の気持ちがわかる人間になりたいと思いませんか	66.5	25.3	91.8	65.4	25.6	91
4 将来の夢や目標を持っていますか	63.2	19.8	83	66.6	17.1	83.7
5 人が困っている時には、進んで助けていますか	24.6	52.9	77.5	23.3	53	76.3
6 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか	23.9	51	74.9	23.1	49.2	72.3
7 自分には、よいところがあると思いませんか	31	42.5	73.5	29.4	42.1	71.5

中学校3年生(富山県)



	富山県			全国		
	当てはまる(そう思う)	どちらかといえば、当てはまる	計	当てはまる(そう思う)	どちらかといえば、当てはまる	計
1 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか	60	29.4	89.4	58.7	29.2	87.9
2 人の役に立つ人間になりたいと思いませんか	61.8	28.5	90.3	60.2	29.4	89.6
3 人の気持ちがわかる人間になりたいと思いませんか	68.3	23.9	92.2	68	23.8	91.8
4 将来の夢や目標を持っていますか	40.6	29.8	70.4	44.4	26.3	70.7
5 人が困っている時には、進んで助けていますか	19.5	53.4	72.9	18.9	53.5	72.4
6 難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか	15.8	48.3	64.1	14.8	47.2	62
7 自分には、よいところがあると思いませんか	20.3	44.5	64.8	20.1	40.4	60.5

資料:平成19年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

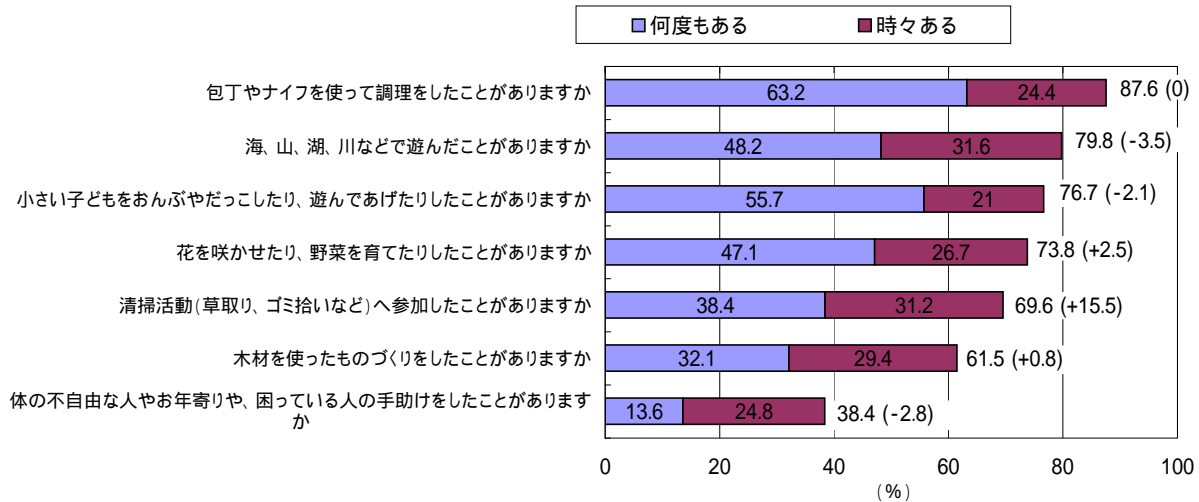
平成19年度 全国学力・学習状況調査結果から見た本県児童・生徒の意識・行動(2)

体験・遊び

遊びや自然との触れ合い、様々な生活体験が不足していると考えられる。  
特に「体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたこと」がある者はかなり少なく、弱者に対する思いやりの心や正義感の育成が課題と考えられる。

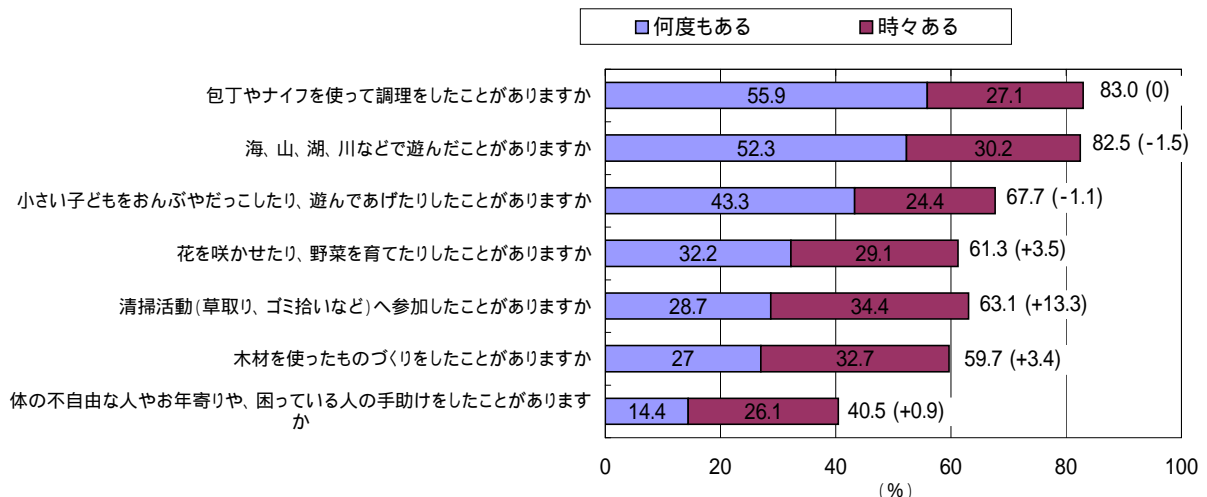
小学校6年生(富山県)

合計の後の( )内の値は、全国との差



	小学校6年生	富山県			全国		
		何度もある	時々ある	計	何度もある	時々ある	計
1	包丁やナイフを使って調理をしたことがありますか	63.2	24.4	87.6	61.9	25.7	87.6
2	海、山、湖、川などで遊んだことがありますか	48.2	31.6	79.8	53.7	29.6	83.3
3	小さい子どもをおんぶやだっこしたり、遊んであげたりしたことがありますか	55.7	21	76.7	58.2	20.6	78.8
4	花を咲かせたり、野菜を育てたりしたことがありますか	47.1	26.7	73.8	44.5	26.8	71.3
5	清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加したことがありますか	38.4	31.2	69.6	28.1	26	54.1
6	木材を使ったものづくりをしたことがありますか	32.1	29.4	61.5	31.1	29.6	60.7
7	体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがありますか	13.6	24.8	38.4	14.5	26.7	41.2

中学校3年生(富山県)



	中学校3年生	富山県			全国		
		何度もある	時々ある	計	何度もある	時々ある	計
1	包丁やナイフを使って調理をしたことがありますか	55.9	27.1	83	54	29	83
2	海、山、湖、川などで遊んだことがありますか	52.3	30.2	82.5	55.4	28.6	84
3	小さい子どもをおんぶやだっこしたり、遊んであげたりしたことがありますか	43.3	24.4	67.7	44.3	24.5	68.8
4	花を咲かせたり、野菜を育てたりしたことがありますか	32.2	29.1	61.3	29.7	28.1	57.8
5	清掃活動(草取り、ゴミ拾いなど)へ参加したことがありますか	28.7	34.4	63.1	20.8	29	49.8
6	木材を使ったものづくりをしたことがありますか	27	32.7	59.7	24.7	31.6	56.3
7	体の不自由な人やお年寄りや、困っている人の手助けをしたことがありますか	14.4	26.1	40.5	12.8	26.8	39.6

資料:平成19年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

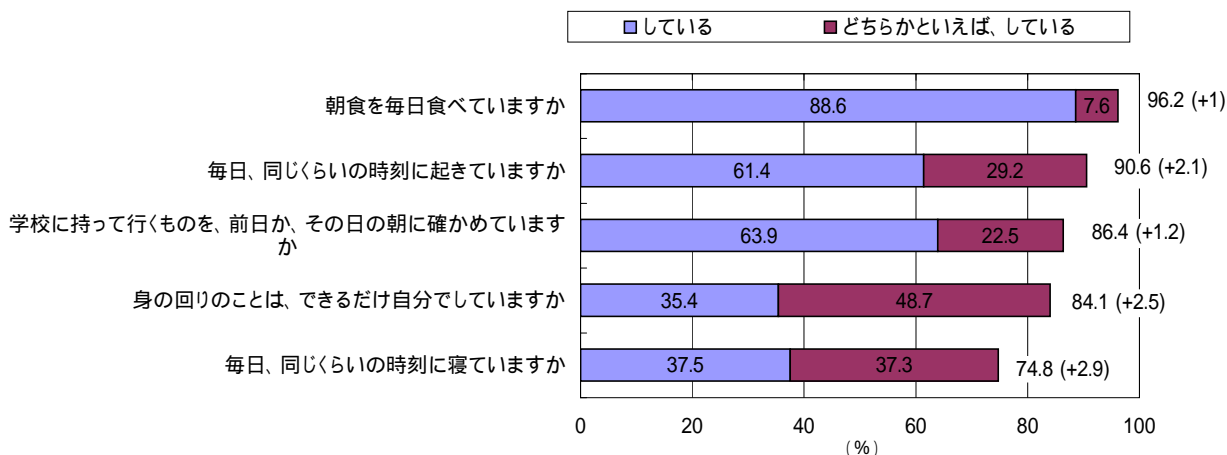
平成19年度 全国学力・学習状況調査結果から見た本県児童・生徒の意識・行動(3)

家庭・生活習慣

本県小中学生は、全国に比べ基本的な生活習慣や生活態度が身に付いていると考えられるが、就寝時刻が毎日決まっている者が、小・中学生が共に約3分の1程度と少ない。  
また、一部であるが朝食を毎日食べない子どもがいることが懸念される。

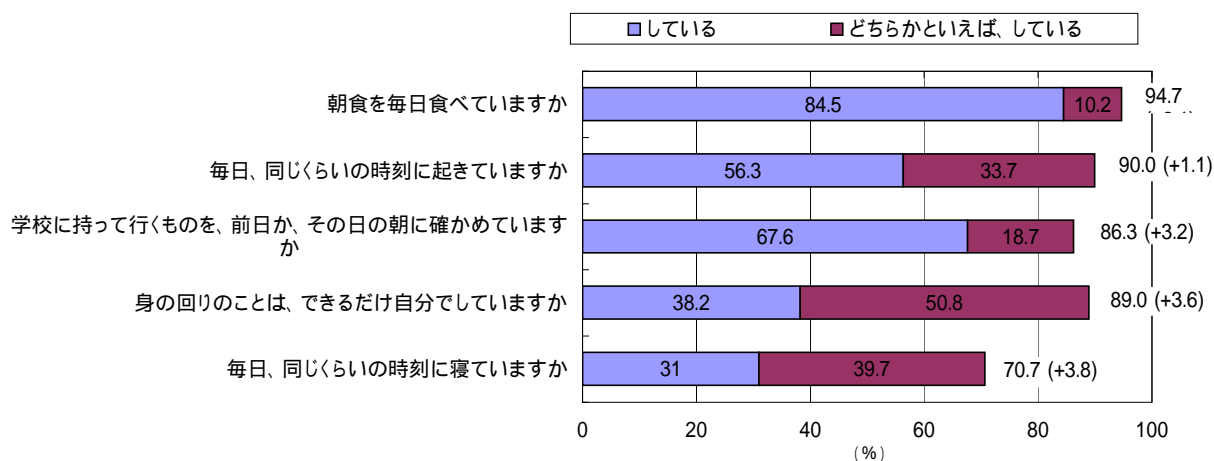
小学校6年生(富山県)

合計の後の( )内の値は、全国との差



	小学校6年生	富山県			全国		
		している	どちらかといえば、している	計	している	どちらかといえば、している	計
1	朝食を毎日食べていますか	88.6	7.6	96.2	86.3	8.9	95.2
2	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	61.4	29.2	90.6	58.7	29.8	88.5
3	学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	63.9	22.5	86.4	64	21.2	85.2
4	身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか	35.4	48.7	84.1	32.1	49.5	81.6
5	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	37.5	37.3	74.8	36.9	35	71.9

中学校3年生(富山県)



	中学校3年生	富山県			全国		
		している	どちらかといえば、している	計	している	どちらかといえば、している	計
1	朝食を毎日食べていますか	84.5	10.2	94.7	80.5	11.1	91.6
2	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	56.3	33.7	90	55	33.9	88.9
3	学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか	67.6	18.7	86.3	65.1	18	83.1
4	身の回りのことは、できるだけ自分でしていますか	38.2	50.8	89	34.4	51	85.4
5	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	31	39.7	70.7	28.8	38.1	66.9

資料:平成19年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

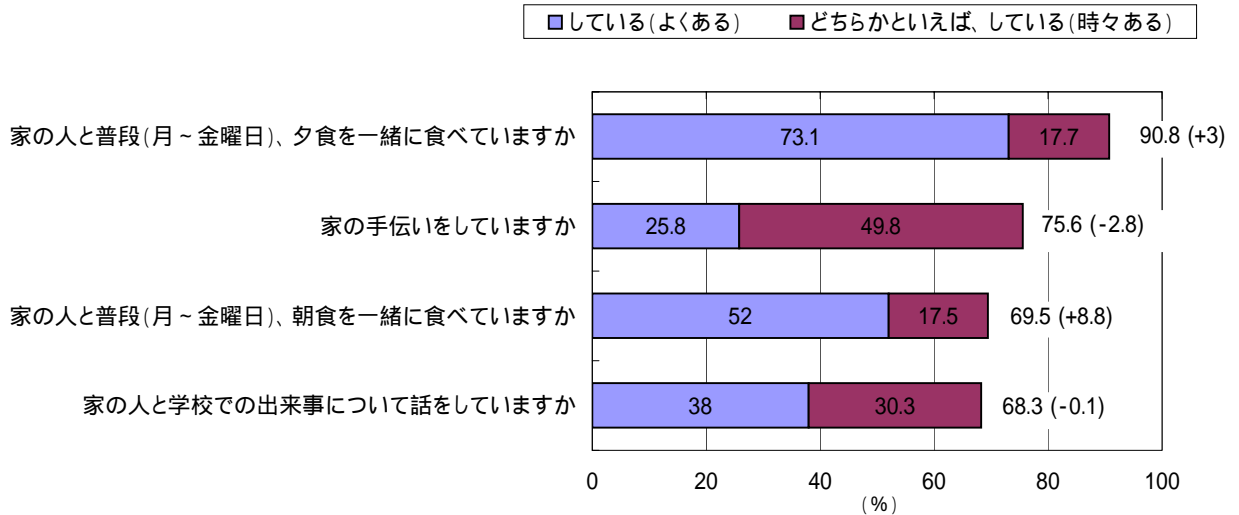
平成19年度 全国学力・学習状況調査結果から見た本県児童・生徒の意識・行動(4)

家庭・コミュニケーション

家族と一緒に夕食を食べている割合は、小・中学生共にかなり高いが、それに比べ、家族と学校での出来事について話をする割合は低く、親子間のコミュニケーション不足が懸念される。

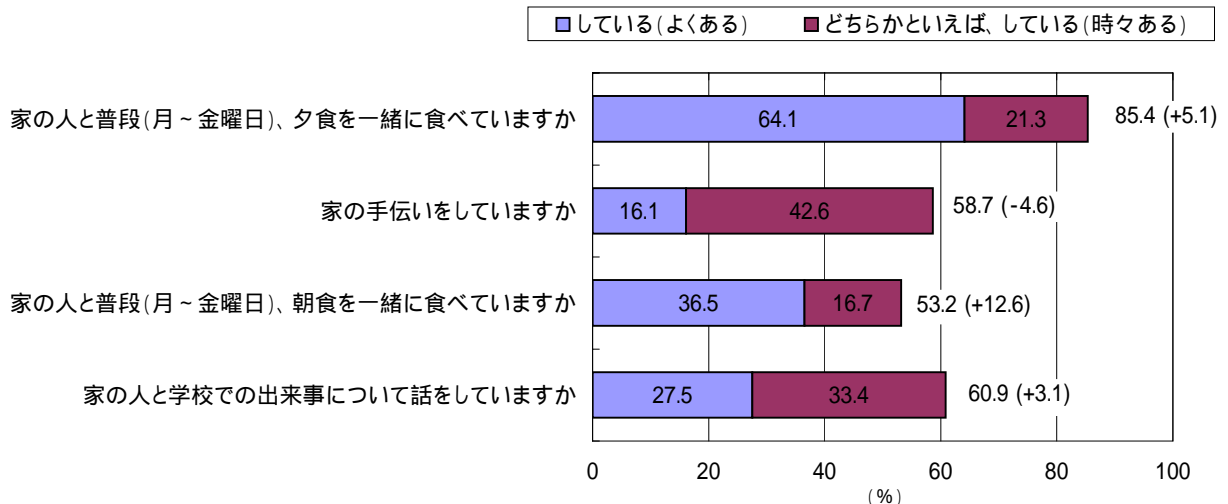
小学校6年生(富山県)

合計の後の( )内の値は、全国との差



	小学校6年生	富山県			全国		
		している(よくある)	どちらかといえば、している(時々ある)	計	している(よくある)	どちらかといえば、している(時々ある)	計
1	家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか	73.1	17.7	90.8	67.9	19.9	87.8
2	家の手伝いをしていますか	25.8	49.8	75.6	28.1	50.3	78.4
3	家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか	52	17.5	69.5	41.7	19	60.7
4	家の人と学校での出来事について話をしていますか	38	30.3	68.3	37.4	31	68.4

中学校3年生(富山県)



	中学校3年生	富山県			全国		
		している(よくある)	どちらかといえば、している(時々ある)	計	している(よくある)	どちらかといえば、している(時々ある)	計
1	家の人と普段(月～金曜日)、夕食を一緒に食べていますか	64.1	21.3	85.4	54.3	26	80.3
2	家の手伝いをしていますか	16.1	42.6	58.7	18.6	44.7	63.3
3	家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べていますか	36.5	16.7	53.2	24.3	16.3	40.6
4	家の人と学校での出来事について話をしていますか	27.5	33.4	60.9	25.9	31.9	57.8

資料:平成19年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

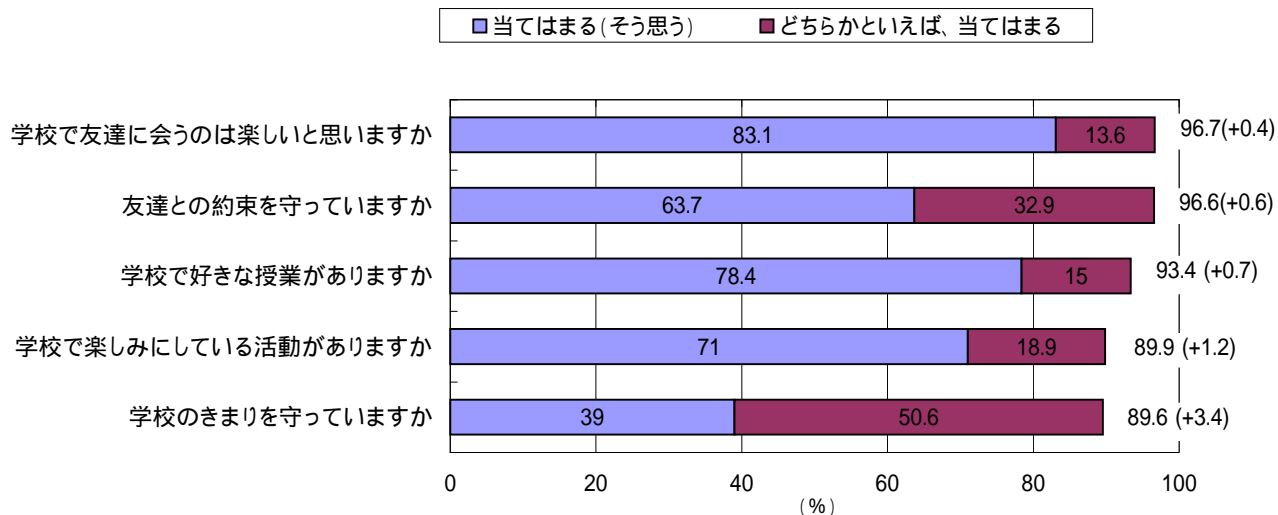
平成19年度 全国学力・学習状況調査結果から見た本県児童・生徒の意識・行動(5)

学校・友達

中学生は小学生に比べ学校で「好きな授業がある」や「楽しみにしている活動がある」割合が低くなっている。

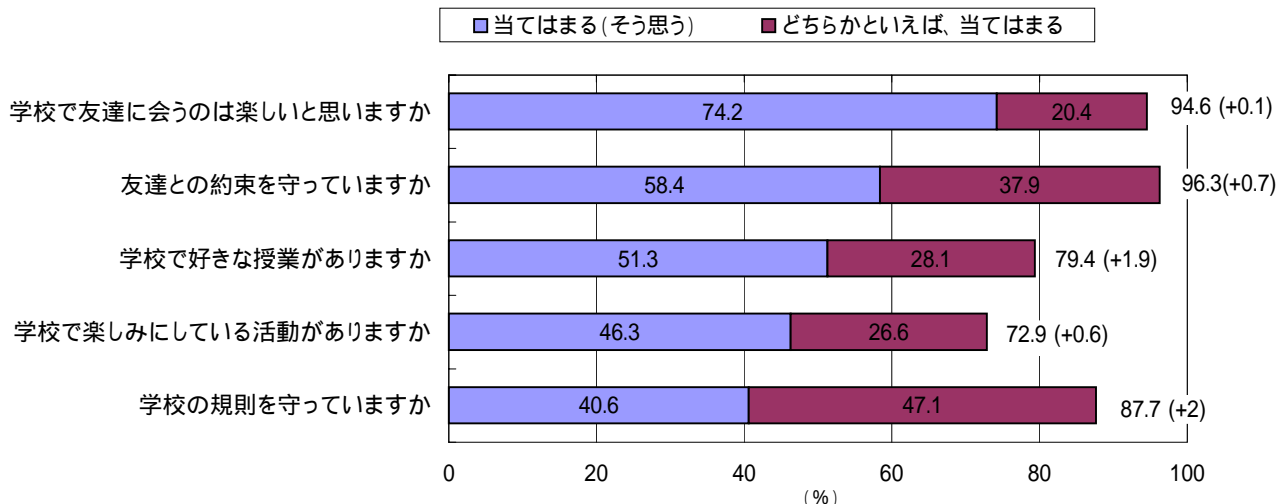
小学校6年生(富山県)

合計の後の( )内の値は、全国との差



	小学校6年生	富山県			全国		
		当てはまる(そう思う)	どちらかといえば、当てはまる	計	当てはまる(そう思う)	どちらかといえば、当てはまる	計
1	学校で友達に会うのは楽しいと思いますか	83.1	13.6	96.7	82.8	13.5	96.3
2	友達との約束を守っていますか	63.7	32.9	96.6	59.5	36.5	96
3	学校で好きな授業がありますか	78.4	15	93.4	77	15.7	92.7
4	学校で楽しみにしている活動がありますか	71	18.9	89.9	69.4	19.3	88.7
5	学校のきまりを守っていますか	39	50.6	89.6	31.5	54.7	86.2

中学校3年生(富山県)



	中学校3年生	富山県			全国		
		当てはまる(そう思う)	どちらかといえば、当てはまる	計	当てはまる(そう思う)	どちらかといえば、当てはまる	計
1	学校で友達に会うのは楽しいと思いますか	74.2	20.4	94.6	76.5	18	94.5
2	友達との約束を守っていますか	58.4	37.9	96.3	56.6	39	95.6
3	学校で好きな授業がありますか	51.3	28.1	79.4	51.9	25.6	77.5
4	学校で楽しみにしている活動がありますか	46.3	26.6	72.9	47.7	24.6	72.3
5	学校の規則を守っていますか	40.6	47.1	87.7	40.2	45.5	85.7

資料:平成19年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)

平成19年度 全国学力・学習状況調査結果から見た本県児童・生徒の意識・行動(6)

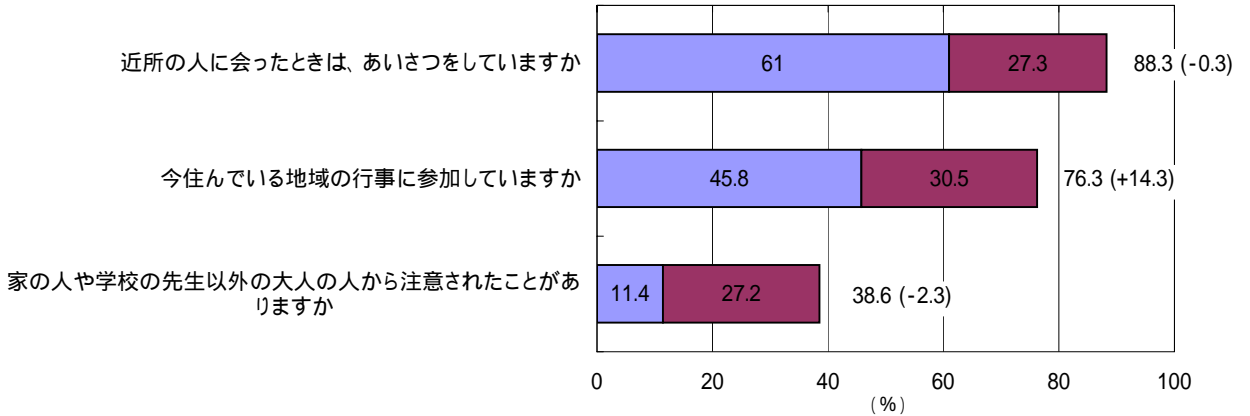
地域

本県の小・中学生は、地域の行事に参加する割合が、全国に比べ大変高いが、「近所の人にあいさつをする」や「大人の人から注意されたことがある」割合が全国に比べ低くなっている。  
 「大人の人から注意されたことがある」割合は、小学校でも4割を切っており、地域全体で子どもを育てるという意識の低下が懸念される。

小学校6年生(富山県)

合計の後の( )内の値は、全国との差

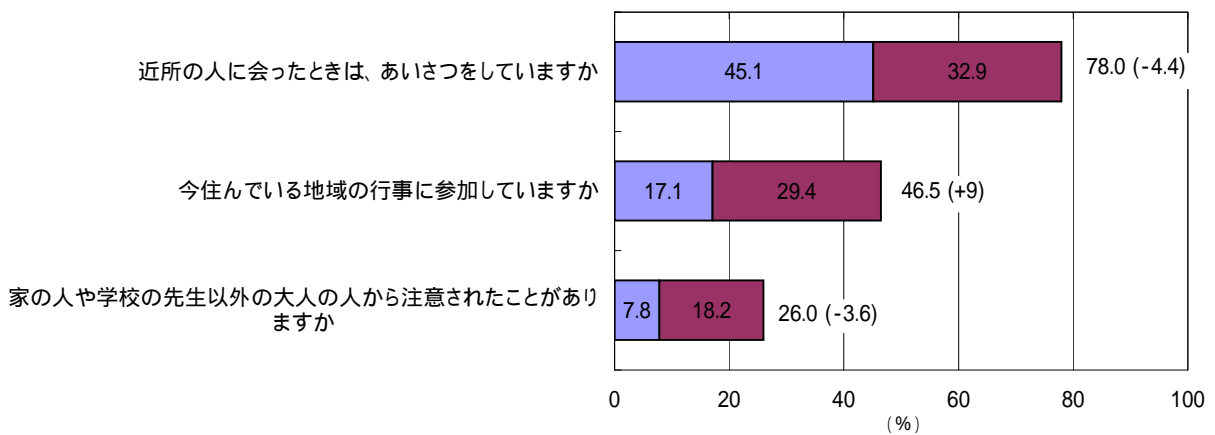
■当てはまる(よくある) ■どちらかといえば、当てはまる(時々ある)



	小学校6年生	富山県			全国		
		当てはまる(よくある)	どちらかといえば、当てはまる(時々ある)	計	当てはまる(よくある)	どちらかといえば、当てはまる(時々ある)	計
1	近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか	61	27.3	88.3	61.9	26.7	88.6
2	今住んでいる地域の行事に参加していますか	45.8	30.5	76.3	33.2	28.8	62
3	家の人や学校の先生以外の大人の人から注意されたことがありますか	11.4	27.2	38.6	12.7	28.2	40.9

中学校3年生(富山県)

■当てはまる(よくある) ■どちらかといえば、当てはまる(時々ある)



	中学校3年生	富山県			全国		
		当てはまる(よくある)	どちらかといえば、当てはまる(時々ある)	計	当てはまる(よくある)	どちらかといえば、当てはまる(時々ある)	計
1	近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか	45.1	32.9	78	52.2	30.2	82.4
2	今住んでいる地域の行事に参加していますか	17.1	29.4	46.5	13.2	24.3	37.5
3	家の人や学校の先生以外の大人の人から注意されたことがありますか	7.8	18.2	26	9	20.6	29.6

資料:平成19年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)



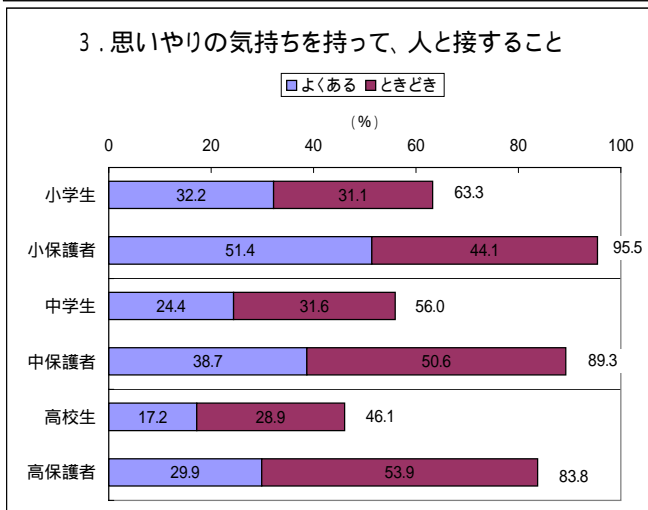
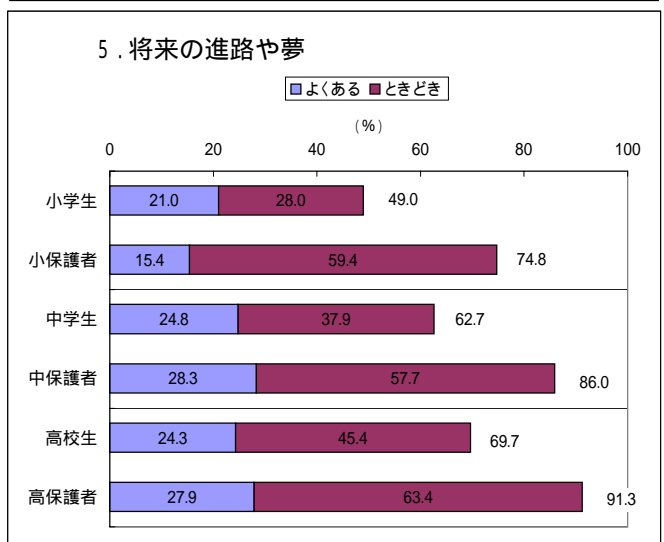
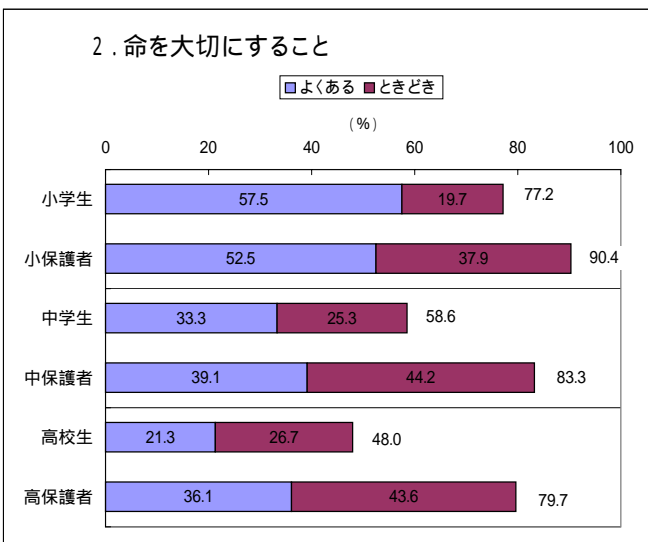
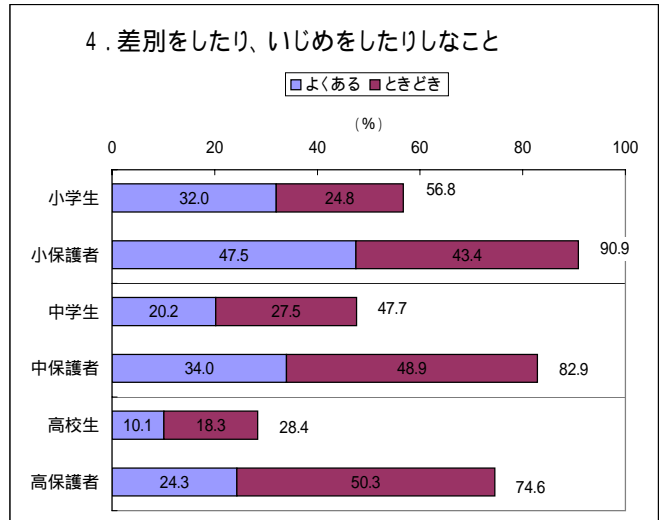
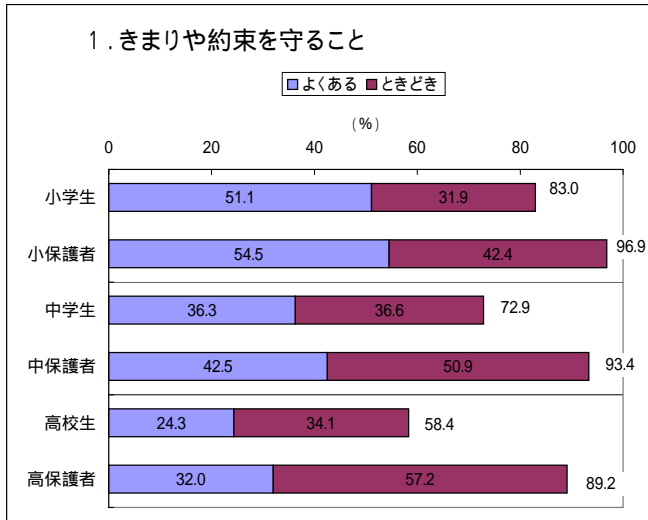
# 児童・生徒と保護者の会話について

全般的に、児童・生徒に比べ、保護者の方が、親子の会話をよくしていると思っている。

「将来の進路や夢」以外は、小中高と進むにつれて親子間の会話が減っている。特に、「思いやりの気持ちを持って、人と接すること」や「差別したり、いじめをしたりしないこと」は、親子間の認識の差が大きい。

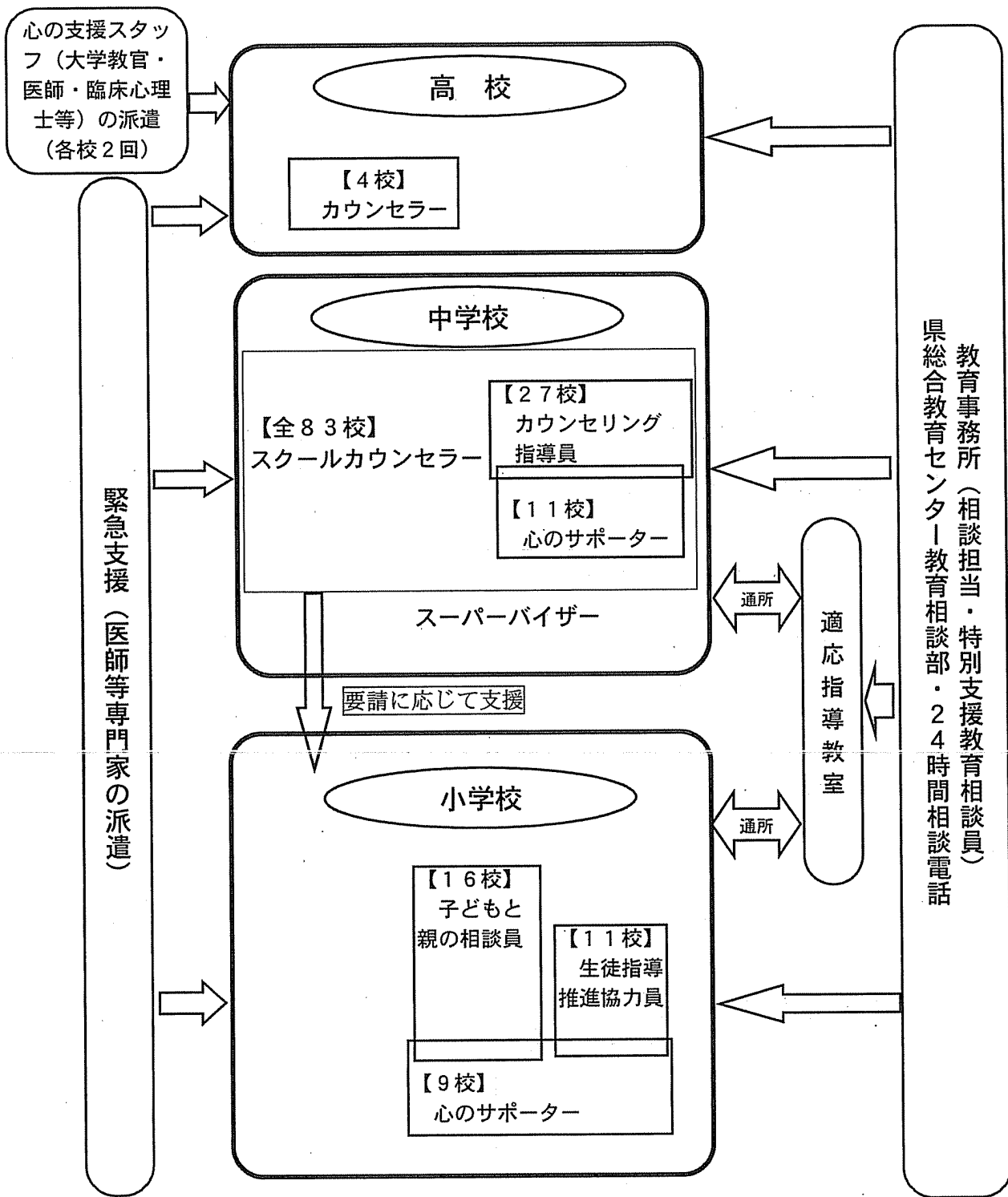
「将来の進路や夢」は、小中高と進むにつれて親子間の会話が増えている。

(問) 児童生徒： あなたは、次のことについて、家の人と話をすることがありますか。  
保護者： 普段、お子さんと次のことについて話をすることがありますか。



資料：生活に関する行動・意識調査 (H18.7) 富山県総合教育センター

# 平成19年度 いじめ・不登校児童生徒対策事業の体系



- いじめ総合対策事業**
- いじめ対応ハンドブックの作成・配布
  - いのちの教育推進事業 (いのちの先生による講話、いのちの授業、ホームページ開設)
  - 24時間相談(いじめ等)電話の設置
  - スーパーバイザーの配置(スクールカウンセラーの困難事例の指導)

## 他県での家庭・地域等と連携した取り組み事例

### (1) 福岡県 「新」家庭教育宣言」 (詳細別紙)

主催：福岡県 PTA 連合会(家庭教育委員会)、福岡県教育委員会 後援：福岡県

“新”家庭教育宣言…福岡県 PTA 連合会家庭教育委員会が提案する項目を参考に、親子で相談して努力目標を宣言し、その実現を家族ぐるみで取り組む

例：夜は 時までに寝る、挨拶はきちんとする、ノーテレビデーをきめる…

実施期間：7月1日～9月30日(3ヶ月間)

関連事業

- ・ 県下一斉親子ふれあい運動 「早寝・早起き・朝ごはん」県民運動  
(年2回：9月3日～9日、1月9日～15日)
- ・ 県下一斉親子ふれあい運動 「いじめ撲滅月間」 (年2回：6月、10月)
- ・ Stop・ザ・非行ふくおか大会 (H19.7.8)

### (2) 香川県 「みんなで子どもを育てる県民運動」

青少年育成香川県民会議(会長：知事)

「みんなで子どもを育てる日」…毎月第3土曜日

「家庭の日」…毎月第3日曜日

### (3) 愛知県 「あいちの教育に関するアクションプラン」(H19.4)

**総論** 家庭・地域・学校の協働による教育の推進

**各論** 家庭・地域・学校に、特に重点的に取り組んでいただきたいことを「宣言」として掲げる。

「かけがえのない自他の命を大切にすることのできる人間」を育てるために

家庭の宣言「あたたかい親心でわが子のしつけをします。」

地域の宣言「大人が率先して子どもたちに範を示します。」

学校の宣言「あらゆる場面で「命を大切にすることのできる人間」に取り組めます。」

「自らの人生をたくましく切り拓き、社会に生かすことのできる人間」を育てるために

家庭の宣言「ノーテレビ・ノーゲーム・ノー残業デーで生まれた時間を学習などに生かします。」

地域の宣言「勤労観・職業観をつちかうため、職場体験活動を支援します。」

学校の宣言「確かな学力を身に付けさせるため、授業力を向上します。」

「健やかな体をつちかい、豊かな文化を継承し創造することのできる人間」を育てるために

家庭の宣言「朝ごはんは毎日きちんと食べます。」

……

## 平成19年度 “新” 家庭教育宣言 実施要項

### 1. 趣 旨

今、子どもたちは、いじめ問題や非行の多様化・低年齢化・残虐化など大変憂慮すべき状況にあります。特に福岡県における少年の非行率が極めて高いことは、私たちPTAにとって誠に残念でなりません。

子どもたちの日常生活をみると、一般的傾向として、基本的な生活習慣、心の豊かさ・逞しさ、自主性、社会性、規範意識、等の様々な課題があるように思われます。子どもたちには、幼い頃から発達段階に応じて身につけるべき資質・能力があり、それを培う原点は家庭教育です。

この提唱に対し、福岡県PTA連合会傘下の20万会員の意識は、「熱く」応えて下さいました。その「熱さ」を確かめ得る3つのポイントがあります。

1つは、平成18年度の“新”家庭教育宣言参加単位Pが108単位Pに上ったということ。2つは、その実践成果報告のための2月3日の会に、1200名が参集したということ。3つは、241単位PTAが「県下一斉親子ふれあい週間」事業に取り組んだということ。

この【家庭教育】再興への熱い潮流を更に大きなうねりとして後押しするために、ここに、平成19年度“新”家庭教育宣言事業を立ち上げます。

2. 主 催 福岡県PTA連合会（家庭教育委員会）、福岡県教育委員会

3. 後 援 福岡県

4. 実施期間 平成19年7月1日より 9月30日（3か月間）

### 5. 事業内容

- (i) 新“家庭教育宣言”（福岡県PTA連合会家庭教育委員会が提案する次の項目を参考に、親子で相談して努力目標を宣言し、その実現に家族ぐるみで取り組む）運動に組織的に取り組む単位PTAを指定し、推進活動費（講師謝金・旅費）の助成等を行う。

#### 統一スローガン（例）

- ・つくろう我が家のルール&バランス
- ・考えよう 今 家庭でできること

#### 宣言項目（例）

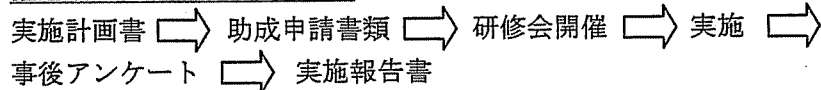
- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| ① 夜は〇〇時までには寝る         | ② 朝は、〇〇時までには自分で起きる |
| ③ 大きな声できちんと返事する       | ④ 挨拶をきちんとする        |
| ⑤ 自分のものは自分で片付ける       | ⑥ 朝食は毎朝きちんと食べる     |
| ⑦ 決めた時間までに家に帰る        | ⑧ 言葉遣いをきちんとする      |
| ⑨ 履物はきちんとそろえる         | ⑩ 毎日テレビを消して読書をする   |
| ⑪ ごはんの時はテレビを消す        | ⑫ 週1回は親子で運動する      |
| ⑬ 近所の人や知り合いに人に進んで挨拶する | ⑭ お風呂掃除をする         |
| ⑮ お茶碗洗いをする            | ⑯ 食べたあとの片づけをする     |
| ⑰ テレビは決めた時間だけにする      | ⑱ 毎日〇時～〇時は勉強する     |
| ⑲ ノーテレビデーを決める         | ⑳ ノーゲームデーを決める など   |

\*子どもの実態に合わせて決める

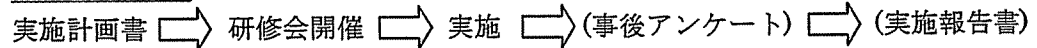
- (2) 本事業を推進するにあたって、県P連、県教委（生涯学習課・義務教育課）、県生活労働部（青少年課）による「家庭教育支援事業推進連絡会議」を開催し、本事業の一層の充実に努める。
- (3) 指定を受けた単位PTAは、下記の事項に留意して実施要領を定め、積極的に推進する。
- ① 児童・生徒の実態に即した実施要領を策定し、それに基づき推進する。
  - ② 事前に実施計画書、事後に実施報告書を作成・提出する。
  - ③ 取り組みの成果と課題を把握するため、10月に参加単Pは事後アンケート調査を実施する。
  - ④ 家庭教育の重要性並びに“新”家庭教育宣言の趣旨、具体的な取組方法について、文書や各種の集会等による研修の機会を設けて会員一人一人の十分な理解を深める。
  - ⑤ 推進活動費助成を受けた参加単Pは、所定の関係書類を提出する。
  - ⑥ 講師派遣については、参加単Pが独自に選定するか、県P作成の講師団名簿により県Pへ依頼するか、青少年アンビシャス運動の“おやじ講座”等に要請するものとする。
  - ⑦ 今年度参加単Pに対しては、各教育事務所にて事前説明会を開催する。
- (4) この取り組みに参加した単位PTAは、家庭に関する各種の研修会に提言を要請された場合には積極的に応じる。とくに、日本PTA全国協議会の「2007、たのしい子育て全国キャンペーン」“家庭の風景／三行詩と写真を大募集”には積極的に投稿する。

◎ 平成19年度実践単位PTA(参加単Pには活動促進の旗印としてのぼりを配付します)

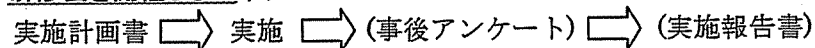
① 推進活動助成の指定を受けた単位PTA ※先着120単位PTAまで



② 助成を受けない単位PTA



③ 研修会を開催しない単位PTA



6. 関連事業 (案)

(1) 県下一斉親子ふれあい運動 「早寝・早起き・朝ごはん」県民運動

- ① 年間2回実施 9月3日～9日、(1月9日～15日)
- ② 子どもの基本的な生活習慣・規範意識の養成

(2) 県下一斉親子ふれあい運動 「いじめ撲滅月間」

- ① 年間2回 6月 10月
- ② いじめ撲滅への啓発(いじめチェックリスト等を活用する)

(3) Stop・ザ・非行 ふくおか大会

期日：平成19年7月8日(日) 会場：北九州芸術劇場

7. 今後のスケジュール

月	県P主要行事	福岡県PTA(家庭教育委員会)	単位PTA
平成19年 2月	3 “新”家庭教育宣言 実践報告会 15 家庭教育委員会 24 第3回 市町村代表者会議	15 H18年度まとめ H19年度実施要領(案)作成 24 H19年度募集案内	
3	13 役員会・理事会	14 H19年度募集開始 22 家庭教育支援事業 推進連絡会議	
4	6 監査会 17 広報紙コンクール 18 家庭教育委員会 20 役員会・理事会	20 指定単位PTA募集締切 二次募集開始	指定単位PTA応募
5	7 新旧母親代表者会議 14 役員・理事会  31 定期総会	指定単位PTA決定 ↓ 中旬 指定単P説明会 (各教育事務所にて) ↓ 家庭教育支援事業 推進連絡会議	説明会への参加 研修会の日程決定 指定単位PTAで 実施要領を作成 講師との打ち合わせ  <実施計画書提出>
6	7 事務局長会 13 広報紙研修会 23 委員総会・理事会 29 3P協研修会	↑ 講師派遣調整 いじめ撲滅月間 ↓	↑ 指定単位PTA の研修会開催 いじめ撲滅月間 ↓
7	5 第1回市町村 代表者会議 8 Stop・ザ・非行 ふくおか大会		
8	役員・理事会		指定単位PTA の取組
9	役員・理事会 9 幹部研修会	早寝・早起き・朝ごはん 県民運動の推進	早寝・早起き・朝ごはん 県民運動の実施 (9/4～9/10)
10	中間監査会	三行詩・写真締切 ↑ いじめ撲滅月間 ↓	↓ 三行詩・写真応募 ↑ 事後アンケート実施 いじめ撲滅月間 ↓
11	役員・理事会 8 第2回市町村 代表者会議	取組の総括	実施報告書提出 事後アンケート集計報告
12			
1		早寝・早起き・朝ごはん 県民運動の推進	早寝・早起き・朝ごはん 県民運動の実施 (1/9～1/15)
2	23 第3回市町村 代表者会議	2 “新”家庭教育宣言実践報告会  H19年度のまとめ H20年度実施要項作成 募集案内 家庭教育支援事業推進連絡会議	2 “新”家庭教育宣言実践報告会

# 教育関連年表（生徒指導関係）

出生率	主な出来事	問題行動等の傾向	西暦	年号	生徒指導関連	教育関連
2.23		・家出少年増加	1967	昭和41	登校拒否（50日以上）調査開始	
			67	42		
			68	43		
	アポロ11号月面着陸	・学生紛争	69	44		
2.14	大阪万博	・少年非行低年齢化	70	45	学級担任の教師による生徒指導資料	高校進学率80%超
	あさま山荘事件 第1次石油危機	・性の逸脱行動	71	46		
1.91	ロッキード事件	・暴走族	72	47	中学校におけるカウンセリングの進め方に関する資料	高校進学率90%超
	ダッカ・ハイジャック事件 ディスコブーム	・落ちこぼれ問題	73	48		
			74	49	生徒指導主事制度化	高校92% 大学・短大38%
	ドラマ「金八先生」放映開始		75	50		
			76	51		
			77	52		
			78	53		
			79	54	生徒の問題行動に関する基礎資料	
	漫オブーム	・校内暴力頻発 ・登校拒否増加	80	55		養護学校の義務化、40人学級の実現
			81	56	生徒指導の手引改訂	
	中曽根内閣発足		82	57	校内暴力、高校中退調査開始	
	ファミコン発売	・少年非行第3のピーク	83	58	出席停止措置	
		・いじめ事件増加	84	59		
	NTT、JT発足 プラザ合意 国鉄民営化決定		85	60	いじめ調査開始	臨時教育審議会 臨教審答申「個性重視の原則」
	男女雇用機会均等法 JR開業	・いじめによる自殺増加 ・携帯電話登場	86	61		備後審判
			87	62		
			88	63		
	冷戦終結		89	平成元		学習指導要領改定「新学力観」
1.57	バブル経済		90	2		
	バブル崩壊	・ダイヤルQ2問題	91	3	登校拒否（30日以上）調査開始	
			92	4	適応指導教室等設置	7万人 小学校学習指導要領全面实施「生活科」導入（小学校低学年）
			93	5		中学校学習指導要領全面实施 業者テスト廃止 選択教科履修幅拡大 大学校週5日制の導入（月1回）
	子どもの権利条約批准	・いじめ事件、自殺増加	94	6	「いじめ対策緊急会議、緊急アピール」	高校学習指導要領実施（学年進行）
	阪神淡路大震災		95	7	スクールカウンセラー事業開始	第2・第4土曜日休業日
			96	8		
		・少年非行の凶悪化 ・メール通信開始	97	9		10万人
	長野五輪	・中学生等による殺傷事件多発	98	10	問題行動等調査見直し（登校拒否 不登校）（欠席30日以上に一本化）	学習指導要領告示「生きる力」「ゆとり」 「総合的な学習の時間」導入 授業時数の大幅削減、教育内容の厳選 中教審「心の教育」
		・学級崩壊の論議	99	11		13万人 社会に学ぶ「14歳の挑戦」開始
		・17歳の犯罪 ・児童虐待の問題	2000	12	学級経営の充実に関する調査研究報告書（学級崩壊）	学校評議員制度導入
	小泉内閣発足	・ひきこもり問題	1	13	問題行動等に関する報告書	
		・出会い系サイトの問題 ・不登校生徒数減少	2	14	不登校問題に関する調査研究協力者会議発足（H15年に報告書）	不登校 完全週5日制 小中学学習指導要領全面实施 指導要領は最低基準 「学びのすすめ」 補充的学習、少人数指導
		・少年の重大事件発生	3	15		高校学習指導要領実施（学年進行） 「情報」「総合的な学習の時間」必修化 発展的な学習 高校97%、大学・短大49%
1.26		・小学生による事件多発 ・二つ問題	4	16		PISA結果公表 読解力低下の指摘
	愛・地球博	・中学生・高校生による重大事件多発	5	17		読解力向上プログラム
	教育基本法改正 安倍内閣発足	・いじめによる自殺	6	18	文部科学大臣からのお願い（いじめ自殺） いじめ問題への取組の徹底 全国統一「24時間いじめ相談ダイヤル」設置	高校未履修問題 教育再生会議
	福田内閣発足		7	19	いじめの定義変更	全国学力・学習状況調査 PISA結果公表